

学校コード F127310108376
注3

設置年度 令和 5年度
計画の区分： 学部の設置
注1

認可

注2
滋慶医療科学大学 医療科学部

(必要がある場合) ○○専攻

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人大阪滋慶学園
令和5年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	
職名・氏名	ジムキョクジチョウ タナカケンイチロウ 事務局次長 田中謙一郎
電話番号	06-6394-1617
(夜間)	06-6394-1617
e-mail	soumu@juhs.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「○○大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) ○○大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「○○大学」
- 学部の設置の場合：「○○大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「○○大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「○○短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「○○大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「○○大学大学院 ○○研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

医療科学部

＜臨床工学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人大阪滋慶学園

(2) 大学名

滋慶医療科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒532-0004

大阪府大阪市淀川区宮原1-2-8

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ウキフネ クニヒコ) 浮舟 邦彦 (昭和60年4月1日)		
学長	(チハラ クニヒロ) 千原 國宏 (令和3年4月1日)		
学部長	(チハラ クニヒロ) 千原 國宏 (令和3年4月1日)		
学科長等	(ヒロセ ミノル) 廣瀬 稔 (令和3年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
医療科学部 臨床工学科 学士（臨床工学）	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリ）	4年	80人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	320人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率（控除後）	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	80	(-)	80	(-)	(-)	80	(-)	(-)	(-)	(-)	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	31	(-)	34	(-)	(-)	29	(-)	(-)	(-)	(-)	
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	29	(-)	32	(-)	(-)	29	(-)	(-)	(-)	(-)	
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	28	(-)	32	(-)	(-)	29	(-)	(-)	(-)	(-)	
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	14	(-)	22	(-)	(-)	22	(-)	(-)	(-)	(-)	
入学定員超過率 B/A							0.17		0.27			0.27					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考	
	春季入学	その他の学期												
1年次	[-] (-)	14 (-)	[-] (-)	22 (-)	[-] (-)	[-] (-)	22 (-)	[-] (-)						
2年次	/		[-] (-)	14 (-)	[-] (-)	[-] (-)	21 (-)	[-] (-)						
3年次			/		[-] (-)	14 (-)	[-] (-)							
4年次	/				[-] (-)									
計			[] ()											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	－人	－人	平成30年度	－人	－人	
令和元年度	－人	－人	平成30年度	－人	－人	
			令和元年度	－人	－人	
令和2年度	－人	－人	平成30年度	－人	－人	
			令和元年度	－人	－人	
			令和2年度	－人	－人	
令和3年度	14人	0人	平成30年度	－人	－人	
			令和元年度	－人	－人	
			令和2年度	－人	－人	
			令和3年度	0人	－人	
令和4年度	36人	1人	平成30年度	－人	－人	
			令和元年度	－人	－人	
			令和2年度	－人	－人	
			令和3年度	0人	－人	
			令和4年度	1人	－人	学生個人の心身に関する事情(1人)
令和5年度	57人	0人	平成30年度	－人	－人	
			令和元年度	－人	－人	
			令和2年度	－人	－人	
			令和3年度	0人	－人	
			令和4年度	0人	－人	
			令和5年度	0人	－人	
合計		1人		1人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{14} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{36} = \boxed{2.77} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{57} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療科学部 臨床工学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	基礎ゼミⅠ	1前	1			1	2	4				
	基礎ゼミⅡ	1後	1			1	2	4				
	英語Ⅰ	1前	2			1						
	英語Ⅱ	1後	2			1						
	英語Ⅲ	2前		2		1						
	英語Ⅳ	2後		2		1						
	医療英語Ⅰ	3前		2		1						
	医療英語Ⅱ	4前		2		1						
	中国語Ⅰ	1前		2								1
	中国語Ⅱ	1後		2								1
	日本語の表現	1前		1								1
	哲学入門	1前		2								1
	クリティカル・シンキング	1後		1								1
	キャリアデザインⅠ	2前		2								1
	キャリアデザインⅡ	3前		1								1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1				2				
	情報処理演習Ⅱ	1後		1				1				
	現代社会と保健・医療・福祉	1前		1			4					
	人間関係と家族	1後		2								1
	心理学入門	1後		2								1
	教育学概論	1後		2								1
	医療と倫理	3前		2								1
	ボランティア論	1後		1								1
	健康・スポーツ実践Ⅰ	1前		1								1
	健康・スポーツ実践Ⅱ	1後		1								1
	社会学入門	1後		2								1
	経済学入門	1前		2								1
	経営学入門	1後		2								1
	法学入門	1後		2								1
	基礎生物学	1前		1			1					
	基礎化学	1前		1			1					
	基礎物理学	1前		1			1					
	基礎数学	1前		1								1
統計学入門	1前		2								1	
小計(34科目)	-		17	36		8	2	5			14	
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2			1						
	基礎医学実習	1前	1			2						
	医学概論	1後	1			1						
	病理学	1後	2			1						
	生化学	1後	2			1						
	臨床生理学	2前	2			1						
	薬理学	2前	2									1
	免疫学	2後	1									1
	臨床免疫学	3前	1			1						1
	血液学	3前		1		1						
	看護学概論	3前	2									1
	公衆衛生学	4前	1			1						
	臨床検査総論	4前		1								1
	応用数学	1後	2					1				
	医用電気工学Ⅰ	1前	2					1				
	医用電気工学Ⅱ	1後	2					1				
	医用電気工学実験	1後	1					1				1
	医用電子工学Ⅰ	2前	2			1						
	医用電子工学Ⅱ	2後	2			1						
	医用電子工学実験	2後	1			1						1
機械工学Ⅰ	2前	2			1							
機械工学Ⅱ	2後	2			1							
情報科学概論	1後	2			1							
情報処理工学	2前	2									1	
情報処理工学実習	2前	1									1	
システム工学	2後	2				1						
小計(27科目)	-		42	2	0	8	1	1			5	

【令和5年度】旧カリキュラム（指定科目の改正前）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	基礎ゼミⅠ	1前	1			1	2	3				
	基礎ゼミⅡ	1後	1			1	2	3				
	英語Ⅰ	1前	2			1						
	英語Ⅱ	1後	2			1						
	英語Ⅲ	2前		2		1						
	英語Ⅳ	2後		2		1						
	医療英語Ⅰ(未開講)	3前		2		1						
	医療英語Ⅱ	4前		2		1						
	中国語Ⅰ	1前		2								1
	中国語Ⅱ	1後		2								1
	日本語の表現	1前		1								1
	哲学入門	1前		2								1
	クリティカル・シンキング	1後		1								1
	キャリアデザインⅠ	2前		2								1
	キャリアデザインⅡ(未開講)	3前		1								1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1				1	1			
	情報処理演習Ⅱ	1後		1					1			
	現代社会と保健・医療・福祉	1前		1			4					
	人間関係と家族	1後		2								1
	心理学入門	1前		2								1
	教育学概論	1後		2								1
	医療と倫理	3前		2								1
	ボランティア論	1後		1								1
	健康・スポーツ実践Ⅰ	1前		1								2
	健康・スポーツ実践Ⅱ	1後		1								2
	社会学入門	1後		2								1
	経済学入門	1前		2								1
	経営学入門	1後		2								1
	法学入門	1前		2								1
	基礎生物学	1前		1			1					
	基礎化学	1前		1			1					
	基礎物理学	1前		1			1					
	基礎数学	1前		1								1
統計学入門	1前		2					1				
小計(34科目)	-		17	36		8	2	3			14	
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	1			2						
	医学概論	1後	1			1						
	病理学	1後	2			1						
	生化学	1後	2			1						
	臨床生理学	2前	2			1						
	薬理学	2前	2									1
	免疫学	2後	1									1
	臨床免疫学	3前	1			1						1
	血液学	3前		1		1						
	看護学概論	3前	2									1
	公衆衛生学	3前	1			1						
	臨床検査総論	4前		1								1
	応用数学	1後	2					1				
	医用電気工学Ⅰ	1前	2					1				
	医用電気工学Ⅱ	1後	2					1				
	医用電気工学実験	1後	1					1				0
	医用電子工学Ⅰ	2前	2			1						
	医用電子工学Ⅱ	2後	2			1						
	医用電子工学実験	2後	1			1						0
機械工学Ⅰ	2前	2			1							
機械工学Ⅱ	2後	2			1							
情報科学概論	1後	2			1							
情報処理工学	2前	2									1	
情報処理工学実習	2前	1									1	
システム工学	2後	2				1						
小計(27科目)	-		42	2	0	8	1	1			5	

【令和5年度】新カリキュラム（指定科目の改正後）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	基礎ゼミⅠ	1前	1			1	2	3				
	基礎ゼミⅡ	1後	1			1	2	3				
	英語Ⅰ	1前	2			1						
	英語Ⅱ	1後	2			1						
	英語Ⅲ	2前		2		1						
	英語Ⅳ	2後		2		1						
	医療英語Ⅰ	3前		2		1						
	医療英語Ⅱ	4前		2		1						
	中国語Ⅰ	1前		2								1
	中国語Ⅱ	1後		2								1
	日本語の表現	1前		1								1
	哲学入門	1前		2								1
	クリティカル・シンキング	1後		1								1
	キャリアデザインⅠ	2前		2								1
	キャリアデザインⅡ	3前		1								1
	情報処理演習Ⅰ	1前	1				1	1				
	情報処理演習Ⅱ	1後	1						1			
	人間関係と家族	1後		2								1
	心理学入門	1前		2								1
	教育学概論	1後		2								1
	医療と倫理	3前	2									1
	ボランティア論	1後		1								1
	健康・スポーツ実践Ⅰ	1前		1								2
	健康・スポーツ実践Ⅱ	1後		1								2
	社会学入門	1後		2								1
	経済学入門	1前		2								1
	経営学入門	1後		2								1
	法学入門	1前		2								1
	自然科学の基礎	基礎生物学	1前	1			1					
		基礎化学	1前	1			1					
		基礎物理学	1前	1			1					
		基礎数学	1前	1								1
		統計学入門	1前	2					1			
	小計(33科目)	-	16	36		4	3	3			14	
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	1			3						
	医学概論	1後	1			1						
	病理学	1後	2			1						
	生化学	1後	2			1						
	臨床薬理学	2前	2								1	
	臨床免疫学	3前	1								1	
	血液学	3前		1		1						
	公衆衛生学	1前	1			1						
	臨床検査総論	4前		1							1	
	応用数学	1後	2					1				
	医用電気工学Ⅰ	1前	2					1				
	医用電気工学Ⅱ	1後	2					1				
	医用電気工学実験	1後	1					1		0		
	医用電子工学Ⅰ	2前	2			1						
	医用電子工学Ⅱ	2後	2			1						
	医用電子工学実験	2後	1			1						
	計測工学	2前	2			2						
	機械工学Ⅰ	2前	2			1						
	機械工学Ⅱ	2後	2			1						
	情報科学概論	1後	2			1						
	情報処理工学	2前	2								1	
	情報処理工学実習	2前	1					1			1	
	システム工学	2後	2				1					
小計(25科目)	-	39	2	0	7	1	2		0	5		
専門科目	臨床工学概論Ⅰ	1前	2			1						
	臨床工学概論Ⅱ	1後	1			1						
	生体物性工学	2後	2				1					
	生体材料工学	3前	2				1					
	放射線工学概論	4前		1							1	
	人工臓器概論	4後		1			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	医用機器学	医用機器学概論	1後	2			1						
		生体計測装置学	2前	2				1					
		生体計測装置学実習	2前	1				1			1		
		医用治療機器学Ⅰ	2後	2				1					
		医用治療機器学Ⅱ	2後	1				1					
		医用治療機器学実習	2後	1				1			1		
		臨床支援技術学	3前	1			1						
		画像診断装置学	3前	1								1	
	生体機能代行技術学	血液浄化療法技術学Ⅰ	2前	2				1					
		血液浄化療法技術学Ⅱ	2後	1				1					
		血液浄化療法技術学実習	2後	1				1	2		1		
		体外循環技術学Ⅰ	2後	2				1					
		体外循環技術学Ⅱ	3前	1				1					
		体外循環技術学実習	3前	1				1			1		
		呼吸療法技術学Ⅰ	3前	2			1						
		呼吸療法技術学Ⅱ	3前	1			1						
	医療安全管理学	呼吸療法技術学実習	3前	1			1		1		1		
		医用機器安全管理学	3前	2			1						
		医療安全管理学	3前	1			1						
		医用機器安全管理学実習	3前	1			1				1		
		医療安全工学	4前		1		1						
		感染症対策概論	4後	1								1	
	臨床関連学	関係法規	3後	1			1						
		臨床医学Ⅰ	2前	2			1						
		臨床医学Ⅱ	2後	2			1						
		臨床医学Ⅲ	3前	2			2						
	地域連携	臨床生理学	2前	2			1						
		多職種連携論	2後	1			1						
		在宅医療論	4後	1								1	
	臨床実習	保健医療福祉行政論	4後		2							1	
		臨床実習	3後	7			4	2	1				
	小計(37科目)			-	53	5	0	5	5	2		1	5
	発展科目	医工連携・専門発展	医療機器産業論	2前	1				1				
			医工連携論Ⅰ	3後		1			1				
			医工連携論Ⅱ	4前		1			1				
			企業実習	3後		2		2	4	2			
			臨床工学特論Ⅰ	4前		1							1
臨床工学特論Ⅱ			4前		1							1	
臨床工学特論Ⅲ			4後		1							1	
臨床工学特論Ⅳ			4後		1							1	
災害医療概論			4前		1							1	
情報・データサイエンス			データサイエンス概論	3前	1								1
		人工知能概論	4前		1							1	
		多変量解析入門	4前		2				1				
		統計モデル論	4後		1				1				
		医療福祉とデータサイエンス	4後		1							1	
		医療情報システム概論	4後		1				1				
		知的財産権概論	4前		1							1	
総合		専門ゼミⅠ	2前	1			8	5	3				
		専門ゼミⅡ	2後	1			8	5	3				
		専門ゼミⅢ	3前		1		8	3					
		専門ゼミⅣ	3後		1		8	3					
		卒業研究	4通	4			7	6	3				
		臨床工学総合演習	4後	1			9	6	3				
小計(22科目)			-	9	17		9	6	3		1	8	
合計(117科目)			-	117	60		12	6	3		1	29	
卒業要件及び履修方法													
必修科目を計117単位と基礎科目の選択科目から6単位以上(うち人間と社会の理解から4単位以上)、発展科目の選択科目から5単位以上を修得し、合計128単位以上修得すること(履修科目の登録の上限:24単位(学期)、48単位(年間))													

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	基礎ゼミⅠ	1前	1			1	2	3				
	基礎ゼミⅡ	1後	1			1	2	3				
	英語Ⅰ	1前	2			1						
	英語Ⅱ	1後	2			1						
	英語Ⅲ(未開講)	2前		2		1						
	英語Ⅳ(未開講)	2後		2		1						
	医療英語Ⅰ	3前		2		1						
	医療英語Ⅱ	4前		2		1						
	中国語Ⅰ	1前		2								1
	中国語Ⅱ	1後		2								1
	日本語の表現	1前		1								1
	哲学入門	1前		2								1
	クリティカル・シンキング	1後		1								1
	キャリアデザインⅠ	2前		2								1
	キャリアデザインⅡ	3前		1								1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1				1				
	情報処理演習Ⅱ	1後		1				1				
	現代社会と保健・医療・福祉	1前		1		4						
	人間関係と家族	1後		2								1
	心理学入門	1前		2								1
	教育学概論	1後		2								1
	医療と倫理	3前		2								1
	ボランティア論	1後		1								1
	健康・スポーツ実践Ⅰ	1前		1								2
	健康・スポーツ実践Ⅱ(未開講)	1後		1								2
	社会学入門	1後		2								1
	経済学入門	1前		2								1
	経営学入門	1後		2								1
	法学入門	1前		2								1
	基礎生物学	1前		1		1						
	基礎化学	1前		1		1						
	基礎物理学	1前		1		1						
	基礎数学	1前		1								1
	統計学入門	1前		2				1				
小計(34科目)	-		17	36		8	2	3			14	
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2			1						
	基礎医学実習	1後	1			2						
	医学概論	1後	1			1						
	病理学	1後	2			1						
	生化学	1後	2			1						
	臨床生理学	2前	2			1						
	薬理学	2前	2									1
	免疫学	2後	1									1
	臨床免疫学	3前	1			1						
	血液学	3前		1		1						
	看護学概論	3前	2									1
	公衆衛生学	4前	1			1						
	臨床検査総論	4前		1								1
	応用数学	1後	2					1				
	医用電気工学Ⅰ	1前	2					1				
	医用電気工学Ⅱ	1後	2					1				
	医用電気工学実験	1後	1					1				0
	医用電子工学Ⅰ	2前	2			1						
	医用電子工学Ⅱ	2後	2			1						
医用電子工学実験	2後	1			1						0	
機械工学Ⅰ	2前	2			1							
機械工学Ⅱ	2後	2			1							
情報科学概論	1後	2			1							
情報処理工学	2前	2									1	
情報処理工学実習	2前	1									1	
システム工学	2後	2					1					
小計(27科目)	-		42	2	0	8	1	1			1	5
専門科目	臨床工学概論	1前	1			1						
	計測工学	2前	2			2						
	生体物性工学	2後	2				1					
	生体材料工学	3前	2				1					
	放射線工学概論	4前		1								1
	人工臓器概論	4後		1			1					

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	基礎ゼミⅠ	1前	1			1	2	3				
	基礎ゼミⅡ	1後	1			1	2	3				
	英語Ⅰ	1前	2			1						
	英語Ⅱ	1後	2			1						
	英語Ⅲ	2前		2		1						
	英語Ⅳ	2後		2		1						
	医療英語Ⅰ	3前		2		1						
	医療英語Ⅱ	4前		2		1						
	中国語Ⅰ	1前		2								1
	中国語Ⅱ	1後		2								1
	日本語の表現	1前		1								1
	哲学入門	1前		2								1
	クリティカル・シンキング	1後		1								1
	キャリアデザインⅠ	2前		2								1
	キャリアデザインⅡ	3前		1								1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1						1		
	情報処理演習Ⅱ	1後		1						1		
	現代社会と保健・医療・福祉	1前		1		4						
	人間関係と家族	1後		2								1
	心理学入門	1後		2								1
	教育学概論(未開講)	1後		2								1
	医療と倫理	3前		2								1
	ボランティア論	1後		1								1
	健康・スポーツ実践Ⅰ	1前		1								2
	健康・スポーツ実践Ⅱ	1後		1								2
	社会学入門	1後		2								1
	経済学入門	1前		2								1
	経営学入門	1後		2								1
	法学入門	1後		2								1
	基礎生物学	1前		1		1						1
	基礎化学	1前		1		1						
	基礎物理学	1前		1		1						
	基礎数学	1前		1								1
	統計学入門	1前		2								1
小計(34科目)	-		17	36		7	2	3			16	
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2			1						1
	基礎医学実習	1後	1			2						
	医学概論	1後	1			1						
	病理学	1後	2			1						
	生化学	1後	2			1						
	臨床生理学	2前	2			1						
	薬理学	2前	2									1
	免疫学	2後	1									1
	臨床免疫学	3前	1			1						
	血液学	3前		1		1						
	看護学概論	3前	2									1
	公衆衛生学	4前	1			1						
	臨床検査総論	4前		1								1
	応用数学	1後	2							1		
	医用電気工学Ⅰ	1前	2							1		
	医用電気工学Ⅱ	1後	2							1		
	医用電気工学実験	1後	1							1		
	医用電子工学Ⅰ	2前	2			1						
	医用電子工学Ⅱ	2後	2			1						
医用電子工学実験	2後	1			1						1	
機械工学Ⅰ	2前	2			1							
機械工学Ⅱ	2後	2			1							
情報科学概論	1後	2			1							
情報処理工学	2前	2									1	
情報処理工学実習	2前	1									1	
システム工学	2後	2							1			
小計(27科目)	-		42	2	0	7	1	1			1	6
専門科目	臨床工学概論	1前	1			1						
	計測工学	2前	2			2						
	生体物性工学	2後	2				1					
	生体材料工学	3前	2				1					
	放射線工学概論	4前		1								1
	人工臓器概論	4後		1			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	医用機器学	医用機器学概論	1後	2			1							
		生体計測装置学	2前	2				1						
		生体計測装置学実習	2前	1				1			0		1	
		医用治療機器学	2後	2									1	
		医用治療機器学実習	2後	1							0		1	
		画像診断装置学	3前		1								1	
		医用画像処理工学	4前		1								1	
	生体機能代行技術学	血液浄化療法装置学Ⅰ	2前	2				1						
		血液浄化療法装置学Ⅱ	2後	1				1						
		血液浄化療法装置学実習	2後	1				1	2		0			
		体外循環装置学Ⅰ	2後	2				1						
		体外循環装置学Ⅱ	3前	1				1						
		体外循環装置学実習	3前	1				1				2		
		呼吸療法装置学Ⅰ	2後	2			1							
		呼吸療法装置学Ⅱ	3前	1			1							
		呼吸療法装置学実習	3前	1			1	1				2		
		生体機能代行装置学総合実習	3後	1			1	2				2		
	医用安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	3前	2			1							
		医用機器安全管理学Ⅱ	3前	1			1		1			2		
		医用機器安全管理学実習	3前	1			1							
		医療安全工学	4前		1		1							
		関係法規	4前	1			1							
	臨床関連学	臨床医学Ⅰ	2前	2			1							
		臨床医学Ⅱ	2後	2			1							
		臨床医学Ⅲ	3前	2			2							
	地域・連携	多職種連携概論	3前	1			1							
		チーム医療論	4前	1								1		
		在宅医療と臨床工学技士	4後	1								1		
		地域包括ケア論	4後	1								1		
		保健医療福祉行政論	4後		2							1		
	臨床実習	3後	4			4	2	3			2			
	小計(37科目)		-	47	7	0	7	5	3			2	6	
	発展科目	医工連携・専門発展	医療機器産業論	2前	1			1						
			医工連携論Ⅰ	3後		1			1					
			医工連携論Ⅱ	4前		1			1					
			企業実習	3後		2		2	3	4			2	
			臨床工学特論Ⅰ	4前		1							1	
臨床工学特論Ⅱ			4前		1							1		
臨床工学特論Ⅲ			4後		1							1		
臨床工学特論Ⅳ			4後		1							1		
感染症対策概論			4後	1								1		
救命救急医学概論			4前		1							1		
災害医療概論		4前		1							1			
情報・データサイエンス		データサイエンス概論	3前	1									1	
		人工知能概論	4前		1								1	
		多変量解析入門	4前		2			1						
		統計モデル論	4後		1				1					
		医療福祉とデータサイエンス	4後		1								1	
		医療情報システム概論	4後		1					1				
		知的財産権概論	4前		1								1	
総合		専門ゼミⅠ	2前	1			8	4	3					
		専門ゼミⅡ	2後	1			8	4	3					
		専門ゼミⅢ	3前		1		8	3	1					
		専門ゼミⅣ	3後		1		8	3	1					
		卒業研究	4通	4			7	6	4					
	小計(23科目)		-	9	19		9	7	4			2	9	
合計(121科目)		-	115	64		13	7	4			3	32		
卒業要件及び履修方法														
必修科目を計115単位と基礎科目の選択科目から6単位以上(うち人間と社会の理解から4単位以上)、発展科目の選択科目から6単位以上、このほか全選択科目の中から1単位以上を修得し、合計128単位以上修得すること(履修科目の登録の上限:24単位(学期)、48単位(年間))														

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	医用機器学	医用機器学概論	1後	2			1							
		生体計測装置学	2前	2				1						
		生体計測装置学実習	2前	1				1				2		
		医用治療機器学	2後	2							1			
		医用治療機器学実習	2後	1							1		2	
		画像診断装置学	3前		1								1	
		医用画像処理工学	4前		1								1	
	生体機能代行技術学	血液浄化療法装置学Ⅰ	2前	2				1						
		血液浄化療法装置学Ⅱ	2後	1				1						
		血液浄化療法装置学実習	2後	1				1	2			2		
		体外循環装置学Ⅰ	2後	2				1						
		体外循環装置学Ⅱ	3前	1				1						
		体外循環装置学実習	3前	1				1				2		
		呼吸療法装置学Ⅰ	2後	2						1				
		呼吸療法装置学Ⅱ	3前	1				1						
		呼吸療法装置学実習	3前	1				1		1		2		
		生体機能代行装置学総合実習	3後	1				1	2			2		
	医用安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	3前	2			1							
		医用機器安全管理学Ⅱ	3前	1			1							
		医用機器安全管理学実習	3前	1			1		1			2		
		医療安全工学	4前		1		1							
		関係法規	4前	1			1							
	臨床関連学	臨床医学Ⅰ	2前	2			1							
		臨床医学Ⅱ	2後	2			1							
		臨床医学Ⅲ	3前	2			2							
	地域・連携	多職種連携概論	2後	1			1							
		チーム医療論	4前	1									1	
		在宅医療と臨床工学技士	4後	1									1	
		地域包括ケア論	4後	1									1	
		保健医療福祉行政論	4後		2								1	
	臨床実習	3後	4			4	2	3			2			
	小計(37科目)		-	47	7	0	7	4	4			2	6	
	発展科目	医工連携・専門発展	医療機器産業論	2前	1			1						
			医工連携論Ⅰ	3後		1			1					
			医工連携論Ⅱ	4前		1			1					
			企業実習	3後		2		2	3	4			2	
			臨床工学特論Ⅰ	4前		1							1	
臨床工学特論Ⅱ			4前		1							1		
臨床工学特論Ⅲ			4後		1							1		
臨床工学特論Ⅳ			4後		1							1		
感染症対策概論			4後	1								1		
救命救急医学概論			4前		1							1		
災害医療概論		4前		1							1			
情報・データサイエンス		データサイエンス概論	3前	1									1	
		人工知能概論	4前		1								1	
		多変量解析入門	4前		2			1						
		統計モデル論	4後		1				1					
		医療福祉とデータサイエンス	4後		1								1	
		医療情報システム概論	4後		1					1				
		知的財産権概論	4前		1								1	
総合		専門ゼミⅠ	2前	1			8	5	5					
		専門ゼミⅡ	2後	1			8	5	5					
		専門ゼミⅢ	3前		1		8	3	1					
		専門ゼミⅣ	3後		1		8	3	1					
		卒業研究	4通	4			7	6	4					
	小計(23科目)		-	9	19		9	6	5			2	9	
合計(121科目)		-	115	64		13	6	5			3	32		
卒業要件及び履修方法														
必修科目を計115単位と基礎科目の選択科目から6単位以上(うち人間と社会の理解から4単位以上)、発展科目の選択科目から6単位以上、このほか全選択科目の中から1単位以上を修得し、合計128単位以上修得すること(履修科目の登録の上限:24単位(学期)、48単位(年間))														

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
 - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・当年度においては、学生数が少ないため担当教員数を減じても教育の質を十分に保てるとの理由により、「基礎ゼミⅠ」と「基礎ゼミⅡ」の専任教員等の配置をそれぞれ「教授1、准教授2、講師4」の計7名から「教授1、准教授2、講師3」の計6名に変更。
- ・当年度においては、学生数が少ないためクラスを分けずに1クラスで授業を行うことになったため、「情報処理演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・自己都合により担当専任教員の入職が4か月遅れることとなり、令和3年度は当該教員が非常勤講師として担当することとなったため、当該教員に係る前期開講科目である「基礎生物学」と「人体の構造と機能Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任1」に変更。
- ・また、当該教員を含む2名の専任教員が担当する「基礎医学実習」について、教育効果、関連科目（人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ）との順次性、時間割、教員負担、科目配置の全体バランス等を総合的に検証した結果、当該科目の開講時期を「1前」から「1後」に変更。
- ・自己都合により「健康・スポーツ実践Ⅰ」と「健康・スポーツ実践Ⅱ」の担当教員が就任辞退したため、教員等の配置を「兼任1」から「兼任2（オムニ）」に変更。
- ・当年度においては、学生数が少ないため助手を配置しなくても教育の質を十分に保てるとの理由により、当年度の措置として「医用電気工学実験」の専任教員等の配置を「講師1、助手1」の計2名から「講師1」の計1名に変更。
- ・教育効果、時間割、科目配置の全体バランス等を総合的に検証した結果、「多職種連携概論」と「医療機器産業論」の開講時期をそれぞれ「1後」から「2後」、「1後」から「2前」に変更。

【令和4年度】

- ・当年度においては、学生数が少ないため担当教員数を減じても教育の質を十分に保てるとの理由により、当年度の措置として次の科目の専任教員等の配置を変更。
 - 基礎ゼミⅠ：「教授1、准教授2、講師4」計7名⇒「教授1、准教授2、講師3」計6名
 - 基礎ゼミⅡ：「教授1、准教授2、講師4」計7名⇒「教授1、准教授2、講師3」計6名
 - 専門ゼミⅠ：「教授8、准教授5、講師5」計18名⇒「教授8、准教授4、講師3」計15名
 - 専門ゼミⅡ：「教授8、准教授5、講師5」計18名⇒「教授8、准教授4、講師3」計15名
 - 医用電気工学実験：「講師1、助手1」計2名⇒「講師1」計1名
 - 医用電子工学実験：「教授1、助手1」計2名⇒「教授1」計1名
 - 生体計測装置学実習：「准教授1、助手2」計3名⇒「准教授1」計1名
 - 医用治療機器学実習：「准教授1、助手2」計3名⇒「兼任1」計1名
 - 血液浄化療法装置学実習：「准教授1、講師2、助手2」計5名⇒「准教授1、講師2」計3名
- ・学生数が少ないためクラスを分けずに1クラスで授業を行うことになったため、「情報処理演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・自己都合により「健康・スポーツ実践Ⅰ」の担当教員が就任辞退したため、教員等の配置を「兼任1」から「兼任2（オムニ）」に変更。
- ・自己都合により「統計学入門」の担当教員が辞任したため、教員等の配置を「兼任1」から「講師1」に変更。
- ・自己都合により「医用治療機器学」「医用治療機器学実習」の担当教員が就任辞退したため、教員等の配置を「兼任1」に変更。
- ・教育効果、関連科目との順次性、時間割、教員負担、科目配置の全体バランス等を総合的に検証した結果、次の科目の開講時期を変更。
 - 心理学入門：「1後」⇒「1前」
 - 法学入門：「1後」⇒「1前」
 - 基礎医学実習：「1前」⇒「1後」
 - 多職種連携概論：「1後」⇒「3前」
 - 医療機器産業論：「1後」⇒「2前」

【令和5年度】

- ・臨床工学技士法の改正に伴い、第14条（受験資格）第4号に定める厚生労働大臣指定科目に変更があったため、令和5年度入学生より教育課程を一部変更（新カリキュラム導入）。旧カリキュラムからの変更点は次のとおり。（令和4年12月末に厚生労働省医政局へ協議申請を行い、令和5年3月末に承認）
 - （1）科目の新設
 - 臨床支援技術学（3前）、臨床工学総合演習（4後）
 - （2）科目の廃止
 - 現代社会と保健・医療・福祉（1前）、看護学概論（3前）、医用画像処理工学（4前）、生体機能代行装置学総合実習（3後）、救命救急医学概論（4前）
 - （3）配当年次の変更
 - 心理学入門（1後⇒1前）、法学入門（1後⇒1前）、基礎医学実習（1前⇒1後）、公衆衛生学（4前⇒1前）、関係法規（4前⇒3後）
 - （4）科目区分の変更
 - 臨床生理学（専門基礎⇒専門）、計測工学（専門⇒専門基礎）、感染症対策概論（発展⇒専門）
 - （5）科目の統合
 - 免疫学（2後）＋臨床免疫学（3前）⇒臨床免疫学（3前）
 - 多職種連携概論（1後）＋チーム医療論（4前）⇒多職種連携論（3前）
 - 在宅医療と臨床工学技士（4後）＋地域包括ケア論（4後）⇒在宅医療論（4後）
 - （6）科目の分割
 - 臨床工学概論（1前）⇒臨床工学概論Ⅰ（1前）、臨床工学概論Ⅱ（1後）
 - 医用治療機器学（2後）⇒医用治療機器学Ⅰ（2後）、医用治療機器学Ⅱ（2後）
 - （7）単位数の変更
 - 臨床実習（4単位⇒7単位）
 - （8）必修/選択の変更
 - 画像診断装置学（選択⇒必修）
 - （9）科目名称の変更
 - 血液浄化療法装置学Ⅰ⇒血液浄化療法技術学Ⅰ、血液浄化療法装置学Ⅱ⇒血液浄化療法技術学Ⅱ、血液浄化療法装置学実習⇒血液浄化療法技術学実習
 - 体外循環装置学Ⅰ⇒体外循環技術学Ⅰ、体外循環装置学Ⅱ⇒体外循環技術学Ⅱ、体外循環装置学実習⇒体外循環技術学実習
 - 呼吸療法装置学Ⅰ⇒呼吸療法技術学Ⅰ、呼吸療法装置学Ⅱ⇒呼吸療法技術学Ⅱ、呼吸療法装置学実習⇒呼吸療法技術学実習
 - 医用機器安全管理学Ⅰ⇒医用機器安全管理学、医用機器安全管理学Ⅱ⇒医療安全管理学
 - （10）科目区分の変更
 - 専門科目-医用安全管理学⇒専門科目-医療安全管理学
- 【新カリキュラム】（1年生）
 - ・当年度においては、学生数が少ないため担当教員数を減じても教育の質を十分に保てるとの理由により、当年度の措置として次の科目の専任教員等の配置を変更。
 - 基礎ゼミⅠ：「教授1、准教授2、講師4」計7名⇒「教授1、准教授2、講師3」計6名
 - 基礎ゼミⅡ：「教授1、准教授2、講師4」計7名⇒「教授1、准教授2、講師3」計6名
 - 医用電気工学実験：「講師1、助手1」計2名⇒「講師1」計1名
 - ・自己都合により「健康・スポーツ実践Ⅰ」と「健康・スポーツ実践Ⅱ」の担当教員が就任辞退したため、教員等の配置を「兼任1」から「兼任2（オムニ）」に変更。
 - ・自己都合により「統計学入門」の担当教員が辞任したため、教員等の配置を「兼任1」から「講師1」に変更。
 - ・教員の職位変更があったため、「情報処理演習Ⅰ」の教員等の配置を「講師2」から「准教授1、講師1」に変更。
- 【旧カリキュラム】（2・3年生）
 - ・当年度においては、学生数が少ないため担当教員数を減じても教育の質を十分に保てるとの理由により、当年度の措置として次の科目の専任教員等の配置を変更。
 - 専門ゼミⅠ：「教授8、准教授5、講師5」計18名⇒「教授8、准教授4、講師3」計15名
 - 専門ゼミⅡ：「教授8、准教授5、講師5」計18名⇒「教授8、准教授4、講師3」計15名
 - 専門ゼミⅢ：「教授8、准教授3、講師1」計12名⇒「教授5、准教授2」計7名
 - 専門ゼミⅣ：「教授8、准教授3、講師1」計12名⇒「教授5、准教授2」計7名
 - 医用電子工学実験：「教授1、助手1」計2名⇒「教授1」計1名
 - 生体計測装置学実習：「准教授1、助手2」計3名⇒「准教授1」計1名
 - 医用治療機器学実習：「准教授1、助手2」計3名⇒「准教授1」計1名
 - 血液浄化療法装置学実習：「准教授1、講師2、助手2」計5名⇒「准教授1、講師2」計3名
 - 体外循環装置学実習：「准教授1、助手1」計2名⇒「准教授1」計1名
 - 呼吸療法装置学実習：「教授1、講師1、助手1」計3名⇒「教授1、講師1」計2名
 - 生体機能代行装置学総合実習：「准教授1、講師2、助手2」計5名⇒「准教授1、講師2」計3名
 - 医用機器安全管理学実習：「教授1、講師1、助手2」計4名⇒「教授1」計1名
 - ・自己都合により「臨床免疫学」の担当教員が就任辞退したため、教員等の配置を「教授1」計1名⇒「兼任1」計1名に変更。

- ・教育効果、関連科目との順次性、時間割、教員負担、科目配置の全体バランス等を総合的に検証した結果、次の科目の開講時期を変更。
 - 多職種連携概論：「1後」⇒「3前」
 - 医療機器産業論：「1後」⇒「2前」
 - 医工連携論Ⅰ：「3後」⇒「3前」
 - 公衆衛生学：「4前」⇒「3前」

箱

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
75 科目	46 科目	科目	121 科目	73 科目 [Δ 2]	44 科目 [Δ 2]	科目 []	117 科目 [Δ 4]	旧カリキュラム 【必修】75科目 [0] 【選択】46科目 [0] 【自由】0科目 [0] 【計】121科目 [0]

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{121} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大阪ハイテクノロジー専門学校 大阪保健福祉専門学校 大阪医療看護専門学校 運動場用地は校舎敷地と別地（公共交通機関利用で40分弱）		
	校舎敷地	0㎡	1,472.59㎡	4,843.86㎡	6,316.45㎡			
	運動場用地	0㎡	1,918.95㎡	0㎡	1,918.95㎡			
	小 計	0㎡	3,391.54㎡	4,843.86㎡	8,235.40㎡			
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	合 計	0㎡	3,391.54㎡	4,843.86㎡	8,235.40㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大阪ハイテクノロジー専門学校 大阪保健福祉専門学校と共用			
	(5,074.11㎡)	(1,789.87㎡)	(12,656.38㎡)	(19,250.36㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	8 室	6 室	6 室	1 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	医療科学部 臨床工学科			22 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	・図書冊数については、教員研究費や科研費による購入や毎年度の若干の整備により当初計画より若干数増加。(R3、R4、R5) ・学術雑誌は、利用状況や重要度、教員の希望等を踏まえ、かつ、海外雑誌の価格高騰等を勘案し、継続停止や新規購入を行った(R5)
	医療科学部	16,400 [2,800] 15,058 [2,692] (16,006 [2,772]) (15,058 [2,692])	83 [39] 96 [41] (84 [39]) (96 [41])	27 [21] 29 [23] (27 [21]) (29 [23])	27 (27)	914 (914)	22 (22)	
	計	16,400 [2,800] 15,058 [2,692] (16,006 [2,772]) (15,058 [2,692])	83 [39] 96 [41] (84 [39]) (96 [41])	27 [21] 29 [23] (27 [21]) (29 [23])	27 (27)	914 (914)	22 (22)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	475.18㎡		89		22,528			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	0㎡		体 育 実 習 室 (218 m ²)					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	30千円	30千円	図書購入費	37,281千円	18,000千円	18,000千円
		共同研究費等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	46,838千円	1,000千円	1,000千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		16,000千円	14,000千円	14,000千円	14,000千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	滋慶医療科学大学										平均入学定員 超過率0.7倍以 下の学科数	1	平均入学定員 超過率1.15倍 以上の学科数	0	収容定員充足 率0.7倍以下の 学科数	1	収容定員充足 率1.15倍以上 の学科数	0
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考					
	年	人	年次 人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
医療科学部	4	80	—	240	—	0.23	—	0.23	—	—	平成23	—						
臨床工学科	4	80	—	240	学士 (臨床工学)	0.23	—	0.23	—	—	令和3	大阪市淀川区宮原1-2-8						
大学全体	4	80	—	240	—	—	—	—	—	—	—	—						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
（様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。）
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、**必ず下線を引いてください。**
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「－」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率（控除後含む）」及び「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<医療科学部 臨床工学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】		氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名
専任・兼任・兼任の別			担当授業科目名				担当授業科目名		
専	教授	千原 國宏 (74) <令和3年4月> 工学博士	計測工学※	千原 國宏 (75) <令和3年4月> 工学博士	計測工学※	千原 國宏 (76) <令和3年4月> 工学博士	計測工学※	千原 國宏 (77) <令和3年4月> 工学博士	計測工学※ 計測工学※
専	教授	廣瀬 稔 (65) <令和3年4月> 博士(医学)	現代社会と保健・医療・福祉※ 臨床工学概論 呼吸療法装置学Ⅰ 呼吸療法装置学Ⅱ 呼吸療法装置学実習 医療安全工学 関係法規 臨床実習 企業実習 卒業研究	廣瀬 稔 (66) <令和3年4月> 博士(医学)	現代社会と保健・医療・福祉※ 臨床工学概論 呼吸療法装置学Ⅰ 呼吸療法装置学Ⅱ 呼吸療法装置学実習 医療安全工学 関係法規 臨床実習 企業実習 卒業研究	廣瀬 稔 (67) <令和3年4月> 博士(医学)	現代社会と保健・医療・福祉※ 臨床工学概論 呼吸療法装置学Ⅰ 呼吸療法装置学Ⅱ 呼吸療法装置学実習 医療安全工学 関係法規 臨床実習 企業実習 卒業研究	廣瀬 稔 (68) <令和3年4月> 博士(医学)	臨床工学概論Ⅰ 臨床工学概論Ⅱ 呼吸療法技術学Ⅰ 呼吸療法技術学Ⅱ 呼吸療法技術学実習 医療安全工学 関係法規 臨床実習 企業実習 卒業研究 臨床工学総合演習
専	教授	山東 勤弥 (65) <令和3年4月> 医学博士	現代社会と保健・医療・福祉※ 人体の構造と機能Ⅰ 公衆衛生学 臨床医学Ⅰ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	山東 勤弥 (66) <令和3年4月> 医学博士	現代社会と保健・医療・福祉※ 人体の構造と機能Ⅰ 公衆衛生学 臨床医学Ⅰ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	山東 勤弥 (67) <令和3年4月> 医学博士	現代社会と保健・医療・福祉※ 人体の構造と機能Ⅰ 公衆衛生学 臨床医学Ⅰ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	山東 勤弥 (68) <令和3年4月> 医学博士	人体の構造と機能Ⅰ 基礎医学実習 公衆衛生学 臨床医学Ⅰ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 現代社会と保健・医療・福祉※ 人体の構造と機能Ⅰ 公衆衛生学 臨床医学Ⅰ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ
専	教授	雨海 照祥 (63) <令和3年4月> 博士(医学)	現代社会と保健・医療・福祉※ 病理学 医学概論 臨床医学Ⅱ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	雨海 照祥 (64) <令和3年4月> 博士(医学)	現代社会と保健・医療・福祉※ 病理学 医学概論 臨床医学Ⅱ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	雨海 照祥 (65) <令和3年4月> 博士(医学)	現代社会と保健・医療・福祉※ 病理学 医学概論 臨床医学Ⅱ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ	雨海 照祥 (66) <令和3年4月> 博士(医学)	病理学 医学概論 臨床医学Ⅱ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 現代社会と保健・医療・福祉※ 病理学 医学概論 臨床医学Ⅱ 臨床医学Ⅲ※ 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ
専	教授	上農 喜朗 (65) <令和3年4月> 博士(医学)	臨床生理学 臨床免疫学	<就任辞退>	<就任辞退>	<就任辞退>	<就任辞退>	<就任辞退>	<就任辞退>
専	教授	和佐 勝史 (65) <令和3年4月> 博士(医学)	現代社会と保健・医療・福祉※ 多職種連携概論	和佐 勝史 (66) <令和3年4月> 博士(医学)	現代社会と保健・医療・福祉※ 多職種連携概論	和佐 勝史 (67) <令和3年4月> 博士(医学)	現代社会と保健・医療・福祉※ 多職種連携概論	和佐 勝史 (68) <令和3年4月> 博士(医学)	多職種連携概論※ 現代社会と保健・医療・福祉※ 多職種連携概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等									
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専任	教授	木村 文隆 (61) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)	専任	教授	木村 文隆 (62) ＜令和3年8月＞ 博士(医学)	専任	教授	木村 文隆 (63) ＜令和3年8月＞ 博士(医学)	専任	教授	木村 文隆 (64) ＜令和3年8月＞ 博士(医学)
		基礎生物学 人体の構造と機能Ⅱ 基礎医学実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎生物学 人体の構造と機能Ⅱ 基礎医学実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎生物学 人体の構造と機能Ⅱ 基礎医学実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎生物学 人体の構造と機能Ⅱ 基礎医学実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
			兼任	講師	木村 文隆 (62) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)						
					基礎生物学 人体の構造と機能Ⅱ						
専任	教授	山本 英樹 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)	専任	教授	山本 英樹 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)	専任	教授	山本 英樹 (51) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)	専任	教授	山本 英樹 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(医学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎化学 基礎医学実習 生化学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎化学 基礎医学実習 生化学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎化学 基礎医学実習 生化学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 基礎化学 基礎医学実習 生化学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専任	教授	辻本 浩章 (65) ＜令和3年4月＞ 工学博士	専任	教授	辻本 浩章 (66) ＜令和3年4月＞ 工学博士	専任	教授	辻本 浩章 (67) ＜令和3年4月＞ 工学博士	専任	教授	辻本 浩章 (68) ＜令和3年4月＞ 工学博士
		医用電子工学Ⅰ 医用電子工学Ⅱ 医用電子工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			医用電子工学Ⅰ 医用電子工学Ⅱ 医用電子工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			医用電子工学Ⅰ 医用電子工学Ⅱ 医用電子工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			医用電子工学Ⅰ 医用電子工学Ⅱ 医用電子工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専任	教授	川越 栄子 (65) ＜令和3年4月＞ 文学修士	専任	教授	川越 栄子 (66) ＜令和3年4月＞ 文学修士	専任	教授	川越 栄子 (67) ＜令和3年4月＞ 文学修士	専任	教授	川越 栄子 (68) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 医療英語Ⅰ 医療英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 医療英語Ⅰ 医療英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 医療英語Ⅰ 医療英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 医療英語Ⅰ 医療英語Ⅱ
専任	教授	小鍵 幸雄 (67) ＜令和3年4月＞ 工学博士	専任	教授	小鍵 幸雄 (68) ＜令和3年4月＞ 工学博士	専任	教授	小鍵 幸雄 (69) ＜令和3年4月＞ 工学博士	専任	教授	小鍵 幸雄 (70) ＜令和3年4月＞ 工学博士
		基礎物理学 機械工学Ⅰ 機械工学Ⅱ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎物理学 機械工学Ⅰ 機械工学Ⅱ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎物理学 機械工学Ⅰ 機械工学Ⅱ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎物理学 機械工学Ⅰ 機械工学Ⅱ 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大石 晴樹 (66) ＜令和3年4月＞ 工学博士
		血液学 情報科学概論 計測工学※ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	教授	吉田 靖 (62) ＜令和3年4月＞ 専門学校卒※
		医用機器学概論 医用機器安全管理学Ⅰ 医用機器安全管理学Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	藤堂 敦 (42) ＜令和3年4月＞ 博士(応用情報科学)
		医用治療機器学 医用治療機器学実習 血液浄化療法装置学Ⅰ 血液浄化療法装置学Ⅱ 血液浄化療法装置学実習 臨床実習 多変量解析入門 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	平井 三友 (63) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		システム工学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	戸田 満秋 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		生体物性工学 生体材料工学 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大石 晴樹 (67) ＜令和3年4月＞ 工学博士
		血液学 情報科学概論 計測工学※ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	教授	吉田 靖 (63) ＜令和3年4月＞ 専門学校卒※
		医用機器学概論 医用機器安全管理学Ⅰ 医用機器安全管理学Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	藤堂 敦 (43) ＜令和4年4月＞ 博士(応用情報科学)
		医用治療機器学 医用治療機器学実習 血液浄化療法装置学Ⅰ 血液浄化療法装置学Ⅱ 血液浄化療法装置学実習 臨床実習 多変量解析入門 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	平井 三友 (64) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		システム工学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	戸田 満秋 (44) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		生体物性工学 生体材料工学 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大石 晴樹 (68) ＜令和3年4月＞ 工学博士
		血液学 情報科学概論 計測工学※ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	教授	吉田 靖 (64) ＜令和3年4月＞ 専門学校卒※
		臨床生理学 医用機器学概論 医用機器安全管理学Ⅰ 医用機器安全管理学Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	<就任辞退>
専	准教授	平井 三友 (65) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		システム工学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	戸田 満秋 (45) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		生体物性工学 生体材料工学 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大石 晴樹 (69) ＜令和3年4月＞ 工学博士
		血液学 情報科学概論 計測工学※ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	教授	吉田 靖 (65) ＜令和3年4月＞ 専門学校卒※
		臨床生理学 医用機器学概論 医用機器安全管理学 医用機器安全管理学実習 臨床実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	<就任辞退>
専	准教授	平井 三友 (66) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		システム工学 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	戸田 満秋 (46) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		生体物性工学 生体材料工学 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	黒光 弘幸 (53) <令和3年4月> 修士(工学)※	専	准教授	黒光 弘幸 (54) <令和3年4月> 修士(工学)※	専	准教授	黒光 弘幸 (55) <令和3年4月> 修士(工学)※	専	准教授	黒光 弘幸 (56) <令和3年4月> 修士(工学)※
		人工臓器概論 体外循環装置学Ⅰ 体外循環装置学Ⅱ 体外循環装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			人工臓器概論 体外循環装置学Ⅰ 体外循環装置学Ⅱ 体外循環装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			人工臓器概論 体外循環装置学Ⅰ 体外循環装置学Ⅱ 体外循環装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			人工臓器概論 体外循環装置学Ⅰ 体外循環装置学Ⅱ 体外循環装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究
専	准教授	川久保 芳文 (49) <令和3年4月> 博士(学術)	専	准教授	川久保 芳文 (50) <令和3年4月> 博士(学術)	専	准教授	川久保 芳文 (51) <令和3年4月> 博士(学術)	専	准教授	川久保 芳文 (52) <令和3年4月> 博士(学術)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 医療機器産業論 医工連携論Ⅰ 医工連携論Ⅱ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 医療機器産業論 医工連携論Ⅰ 医工連携論Ⅱ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 医療機器産業論 医工連携論Ⅰ 医工連携論Ⅱ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 医療機器産業論 医工連携論Ⅰ 医工連携論Ⅱ 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	准教授	島崎 拓則 (51) <令和3年4月> 修士(医科学)	専	准教授	島崎 拓則 (52) <令和3年4月> 博士(学術)	専	准教授	島崎 拓則 (53) <令和3年4月> 博士(学術)	専	准教授	島崎 拓則 (54) <令和3年4月> 博士(学術)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 生体計測装置学 生体計測装置学実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 生体計測装置学 生体計測装置学実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 生体計測装置学 生体計測装置学実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 生体計測装置学 生体計測装置学実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 卒業研究
専	講師	松井 智博 (44) <令和4年4月> 博士(応用情報科学)	専	講師	松井 智博 (45) <令和3年12月> 博士(応用情報科学)	専	准教授	松井 智博 (46) <令和3年12月> 博士(応用情報科学)	専	准教授	松井 智博 (47) <令和3年12月> 博士(応用情報科学)
		情報処理演習Ⅰ 呼吸療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			情報処理演習Ⅰ 呼吸療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅰ 血液浄化療法装置学Ⅰ 血液浄化療法装置学Ⅱ 血液浄化療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅰ 血液浄化療法装置学Ⅰ 血液浄化療法装置学Ⅱ 血液浄化療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究
兼任	講師	松井 智博 (44) <令和3年4月> 博士(応用情報科学)									
		情報処理演習Ⅰ									

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等									
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	講師	瀧脇 栄治 (57) ＜令和3年4月＞ 工学修士	専	講師	瀧脇 栄治 (58) ＜令和3年4月＞ 工学修士	専	講師	瀧脇 栄治 (59) ＜令和3年4月＞ 工学修士	専	講師	瀧脇 栄治 (60) ＜令和3年4月＞ 工学修士
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 応用数学 医用電気工学Ⅰ 医用電気工学Ⅱ 医用電気工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 応用数学 医用電気工学Ⅰ 医用電気工学Ⅱ 医用電気工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 応用数学 医用電気工学Ⅰ 医用電気工学Ⅱ 医用電気工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 応用数学 医用電気工学Ⅰ 医用電気工学Ⅱ 医用電気工学実験 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究
専	講師	木田 奈々美 (44) ＜令和3年4月＞ 博士(保健学)	専	講師	木田 奈々美 (45) ＜令和3年4月＞ 博士(保健学)	専	講師	木田 奈々美 (46) ＜令和3年4月＞ 博士(保健学)	専	講師	木田 奈々美 (47) ＜令和3年4月＞ 博士(保健学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅰ 血液浄化療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅰ 血液浄化療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅰ 血液浄化療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅰ 血液浄化療法装置学実習 生体機能代行装置学総合実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究
専	講師	田中 智之 (41) ＜令和3年4月＞ 博士(応用情報科学)	専	講師	田中 智之 (42) ＜令和3年4月＞ 博士(応用情報科学)	専	講師	田中 智之 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(応用情報科学)	専	講師	田中 智之 (44) ＜令和3年4月＞ 博士(応用情報科学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅱ 血液浄化療法装置学実習 企業実習 統計モデル論 医療情報システム概論 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅱ 血液浄化療法装置学実習 企業実習 統計モデル論 医療情報システム概論 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅱ 血液浄化療法装置学実習 企業実習 統計モデル論 医療情報システム概論 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅱ 血液浄化療法装置学実習 企業実習 統計モデル論 医療情報システム概論 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 卒業研究
専	講師	篠原 智誉 (44) ＜令和3年4月＞ 修士(医療安全管理学)	専	講師	篠原 智誉 (45) ＜令和4年4月＞ 修士(医療安全管理学)	専	講師	篠原 智誉 (46) ＜令和5年4月＞ 修士(医療安全管理学)	専	講師	<就任辞退>
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 情報処理演習Ⅱ 医用機器安全管理学実習 臨床実習 企業実習 専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ			<就任辞退>
兼任	講師	石松 一真 (45) ＜令和3年10月＞ 博士(人間科学)	兼任	講師	石松 一真 (46) ＜令和3年10月＞ 博士(人間科学)	兼任	講師	石松 一真 (47) ＜令和3年10月＞ 博士(人間科学)	兼任	講師	石松 一真 (48) ＜令和3年10月＞ 博士(人間科学)
		心理学入門			心理学入門			心理学入門			心理学入門
兼任	講師	山下 哲平 (39) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)	兼任	講師	山下 哲平 (40) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)	兼任	講師	<辞任>	兼任	講師	<辞任>
		統計学入門			統計学入門			<辞任>			<辞任>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大石 雅子 (62) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)	薬理学
兼任	講師	狩俣 正雄 (69) ＜令和3年10月＞ 博士(経営学)	経営学入門
兼任	講師	天野 敬子 (63) ＜令和6年10月＞ 修士(社会福祉学)	地域包括ケア論
兼任	講師	張 蘭 (43) ＜令和3年4月＞ 修士(学術)	中国語 I 中国語 II
兼任	講師	武内 恵美子 (47) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)	日本語の表現
兼任	講師	桑原 英之 (42) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)※	クリティカル・シンキング 哲学入門
兼任	講師	宮津 聡子 (55) ＜令和4年4月＞ 理学士	キャリアデザイン I キャリアデザイン II
兼任	講師	山本 桂子 (55) ＜令和3年10月＞ 修士(社会学)	人間関係と家族 教育学概論
兼任	講師	吉田 秀和 (55) ＜令和3年10月＞ 文学修士※	医療と倫理 社会学入門
兼任	講師	鈴木 操 (59) ＜令和3年4月＞ 体育学修士	健康・スポーツ実践 I 健康・スポーツ実践 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大石 雅子 (63) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)	薬理学
兼任	講師	狩俣 正雄 (70) ＜令和3年10月＞ 博士(経営学)	経営学入門
兼任	講師	天野 敬子 (64) ＜令和6年10月＞ 修士(社会福祉学)	地域包括ケア論
兼任	講師	張 蘭 (44) ＜令和3年4月＞ 修士(学術)	中国語 I 中国語 II
兼任	講師	武内 恵美子 (48) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)	日本語の表現
兼任	講師	桑原 英之 (43) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)※	クリティカル・シンキング 哲学入門
兼任	講師	宮津 聡子 (56) ＜令和4年4月＞ 理学士	キャリアデザイン I キャリアデザイン II
兼任	講師	山本 桂子 (56) ＜令和3年10月＞ 修士(社会学)	人間関係と家族 教育学概論
兼任	講師	吉田 秀和 (56) ＜令和3年10月＞ 文学修士※	医療と倫理 社会学入門
		＜就任辞退＞	
兼任	講師	佐藤 曜子 (40) ＜令和3年4月＞ 学士(教育学)	健康・スポーツ実践 I ※ 健康・スポーツ実践 II ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大石 雅子 (64) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)	薬理学
兼任	講師	狩俣 正雄 (71) ＜令和3年10月＞ 博士(経営学)	経営学入門
兼任	講師	天野 敬子 (65) ＜令和6年10月＞ 修士(社会福祉学)	地域包括ケア論
兼任	講師	張 蘭 (45) ＜令和3年4月＞ 修士(学術)	中国語 I 中国語 II
兼任	講師	武内 恵美子 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)	日本語の表現
兼任	講師	桑原 英之 (44) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)※	クリティカル・シンキング 哲学入門
兼任	講師	宮津 聡子 (57) ＜令和4年4月＞ 理学士	キャリアデザイン I キャリアデザイン II
兼任	講師	山本 桂子 (57) ＜令和3年10月＞ 修士(社会学)	人間関係と家族 教育学概論
兼任	講師	吉田 秀和 (57) ＜令和3年10月＞ 文学修士※	医療と倫理 社会学入門
		＜就任辞退＞	
兼任	講師	織田 恵輔 (38) ＜令和4年8月＞ 博士(医学)	健康・スポーツ実践 I ※ 健康・スポーツ実践 II ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大石 雅子 (65) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)	臨床薬理学 薬理学
兼任	講師	狩俣 正雄 (72) ＜令和3年10月＞ 博士(経営学)	経営学入門 経営学入門
兼任	講師	天野 敬子 (66) ＜令和6年10月＞ 修士(社会福祉学)	(なし) 地域包括ケア論
兼任	講師	張 蘭 (46) ＜令和3年4月＞ 修士(学術)	中国語 I 中国語 II 中国語 I 中国語 II
兼任	講師	武内 恵美子 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)	日本語の表現 日本語の表現
兼任	講師	桑原 英之 (45) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)※	クリティカル・シンキング 哲学入門 クリティカル・シンキング 哲学入門
兼任	講師	宮津 聡子 (58) ＜令和4年4月＞ 理学士	キャリアデザイン I キャリアデザイン II キャリアデザイン I キャリアデザイン II
兼任	講師	山本 桂子 (58) ＜令和3年10月＞ 修士(社会学)	人間関係と家族 教育学概論 人間関係と家族 教育学概論
兼任	講師	吉田 秀和 (58) ＜令和3年10月＞ 文学修士※	医療と倫理 社会学入門 医療と倫理 社会学入門
		＜就任辞退＞	
兼任	講師	織田 恵輔 (39) ＜令和4年8月＞ 博士(医学)	健康・スポーツ実践 I ※ 健康・スポーツ実践 II ※ 健康・スポーツ実践 I ※ 健康・スポーツ実践 II ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	村上 薫 (70) ＜令和3年4月＞ Master of Business Administration (経営学修士)(米国)
		経済学入門 保健医療福祉行政論
兼任	講師	出嶋 陽介 (49) ＜令和3年10月＞ 修士(法学)※
		法学入門
兼任	講師	前田 純一郎 (55) ＜令和3年4月＞ 修士(理学)
		基礎数学
兼任	講師	高見 清美 (59) ＜令和5年4月＞ 修士(学術)
		看護学概論
兼任	講師	渡邊 毅 (53) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		情報処理工学 情報処理工学実習 データサイエンス概論
兼任	講師	星野 貴志 (43) ＜令和6年4月＞ 博士(保健学)
		放射線工学概論
兼任	講師	関谷 俊範 (38) ＜令和5年4月＞ 修士(保健学)
		画像診断装置学 医用画像処理工学
兼任	講師	木村 政義 (51) ＜令和6年4月＞ 修士(経営学)
		チーム医療論
兼任	講師	吉田 哲也 (51) ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		人工知能概論
兼任	講師	安在 絵美 (30) ＜令和6年10月＞ 博士(理学)
		医療福祉とデータサイエンス
兼任	講師	森本 昭裕 (55) ＜令和6年4月＞ 工学修士
		知的財産権概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	織田 修輔 (33) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		健康・スポーツ実践Ⅰ※ 健康・スポーツ実践Ⅱ※
兼任	講師	村上 薫 (71) ＜令和3年4月＞ Master of Business Administration (経営学修士)(米国)
		経済学入門 保健医療福祉行政論
兼任	講師	出嶋 陽介 (50) ＜令和3年10月＞ 修士(法学)※
		法学入門
兼任	講師	前田 純一郎 (56) ＜令和3年4月＞ 修士(理学)
		基礎数学
兼任	講師	高見 清美 (60) ＜令和5年4月＞ 修士(学術)
		看護学概論
兼任	講師	渡邊 毅 (54) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		情報処理工学 情報処理工学実習 データサイエンス概論
兼任	講師	星野 貴志 (44) ＜令和6年4月＞ 博士(保健学)
		放射線工学概論
兼任	講師	関谷 俊範 (39) ＜令和5年4月＞ 修士(保健学)
		画像診断装置学 医用画像処理工学
兼任	講師	木村 政義 (52) ＜令和6年4月＞ 修士(経営学)
		チーム医療論
兼任	講師	吉田 哲也 (52) ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		人工知能概論
兼任	講師	安在 絵美 (31) ＜令和6年10月＞ 博士(理学)
		医療福祉とデータサイエンス
兼任	講師	森本 昭裕 (56) ＜令和6年4月＞ 工学修士
		知的財産権概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	坂本 拓己 (25) ＜令和4年8月＞ 修士(教育学)
		健康・スポーツ実践Ⅰ※ 健康・スポーツ実践Ⅱ※
兼任	講師	村上 薫 (72) ＜令和3年4月＞ Master of Business Administration (経営学修士)(米国)
		経済学入門 保健医療福祉行政論
兼任	講師	出嶋 陽介 (51) ＜令和3年10月＞ 修士(法学)※
		法学入門
兼任	講師	前田 純一郎 (57) ＜令和3年4月＞ 修士(理学)
		基礎数学
兼任	講師	高見 清美 (61) ＜令和5年4月＞ 修士(学術)
		看護学概論
兼任	講師	渡邊 毅 (55) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		情報処理工学 情報処理工学実習 データサイエンス概論
兼任	講師	星野 貴志 (45) ＜令和6年4月＞ 博士(保健学)
		放射線工学概論
兼任	講師	関谷 俊範 (40) ＜令和5年4月＞ 修士(保健学)
		画像診断装置学 医用画像処理工学
兼任	講師	木村 政義 (53) ＜令和6年4月＞ 修士(経営学)
		チーム医療論
兼任	講師	吉田 哲也 (53) ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		人工知能概論
兼任	講師	安在 絵美 (32) ＜令和6年10月＞ 博士(理学)
		医療福祉とデータサイエンス
兼任	講師	森本 昭裕 (57) ＜令和6年4月＞ 工学修士
		知的財産権概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	坂本 拓己 (25) ＜令和4年8月＞ 修士(教育学)
		健康・スポーツ実践Ⅰ※ 健康・スポーツ実践Ⅱ※
兼任	講師	村上 薫 (73) ＜令和3年4月＞ Master of Business Administration (経営学修士)(米国)
		経済学入門 保健医療福祉行政論
兼任	講師	出嶋 陽介 (52) ＜令和3年10月＞ 修士(法学)※
		法学入門
兼任	講師	前田 純一郎 (58) ＜令和3年4月＞ 修士(理学)
		基礎数学
兼任	講師	高見 清美 (62) ＜令和5年4月＞ 修士(学術)
		(なし)
兼任	講師	渡邊 毅 (56) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		情報処理工学 情報処理工学実習 データサイエンス概論
兼任	講師	星野 貴志 (46) ＜令和6年4月＞ 博士(保健学)
		(なし)
兼任	講師	関谷 俊範 (41) ＜令和5年4月＞ 修士(保健学)
		画像診断装置学
兼任	講師	木村 政義 (54) ＜令和6年4月＞ 修士(経営学)
		(なし)
兼任	講師	吉田 哲也 (54) ＜令和6年4月＞ 博士(工学)
		人工知能概論
兼任	講師	安在 絵美 (33) ＜令和6年10月＞ 博士(理学)
		医療福祉とデータサイエンス
兼任	講師	森本 昭裕 (58) ＜令和6年4月＞ 工学修士
		知的財産権概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等									
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	神谷 典男 (48) <令和6年4月> 専門学校卒	兼任	講師	神谷 典男 (49) <令和6年4月> 専門学校卒	兼任	講師	神谷 典男 (50) <令和6年4月> 専門学校卒	兼任	講師	神谷 典男 (51) <令和6年4月> 専門学校卒
		臨床工学特論Ⅰ			臨床工学特論Ⅰ			臨床工学特論Ⅰ			臨床工学特論Ⅰ 臨床工学特論Ⅰ
兼任	講師	北本 憲永 (49) <令和6年4月> 専門学校卒	兼任	講師	北本 憲永 (50) <令和6年4月> 専門学校卒	兼任	講師	北本 憲永 (51) <令和6年4月> 専門学校卒	兼任	講師	北本 憲永 (52) <令和6年4月> 専門学校卒
		臨床工学特論Ⅱ			臨床工学特論Ⅱ			臨床工学特論Ⅱ			臨床工学特論Ⅱ 臨床工学特論Ⅱ
兼任	講師	尾崎 孝平 (63) <令和6年10月> 医学士	兼任	講師	尾崎 孝平 (64) <令和6年10月> 医学士	兼任	講師	尾崎 孝平 (65) <令和6年10月> 医学士	兼任	講師	尾崎 孝平 (66) <令和6年10月> 医学士
		臨床工学特論Ⅲ 臨床工学特論Ⅳ			臨床工学特論Ⅲ 臨床工学特論Ⅳ			臨床工学特論Ⅲ 臨床工学特論Ⅳ			臨床工学特論Ⅲ 臨床工学特論Ⅳ 臨床工学特論Ⅲ 臨床工学特論Ⅳ
兼任	講師	中根 正樹 (51) <令和6年4月> 博士(医学)	兼任	講師	中根 正樹 (52) <令和6年4月> 博士(医学)	兼任	講師	中根 正樹 (53) <令和6年4月> 博士(医学)	兼任	講師	中根 正樹 (54) <令和6年4月> 博士(医学)
		救命救急医学概論 災害医療概論			救命救急医学概論 災害医療概論			救命救急医学概論 災害医療概論			(なし) 救命救急医学概論 災害医療概論
兼任	講師	松良 尚子 (51) <令和6年10月> 修士(医療安全管理学)	兼任	講師	松良 尚子 (52) <令和6年10月> 修士(医療安全管理学)	兼任	講師	松良 尚子 (53) <令和6年10月> 修士(医療安全管理学)	兼任	講師	松良 尚子 (54) <令和6年10月> 修士(医療安全管理学)
		臨床検査総論			臨床検査総論			臨床検査総論			臨床検査総論 臨床検査総論
兼任	講師	朝野 和典 (64) <令和6年4月> 博士(医学)	兼任	講師	朝野 和典 (65) <令和6年4月> 博士(医学)	兼任	講師	朝野 和典 (66) <令和6年4月> 博士(医学)	兼任	講師	朝野 和典 (67) <令和6年4月> 博士(医学)
		感染症対策概論			感染症対策概論			感染症対策概論			感染症対策概論 感染症対策概論
兼任	講師	駒井 亘 (46) <令和4年10月> 修士(医療安全管理学)	兼任	講師	駒井 亘 (48) <令和4年10月> 修士(医療安全管理学)	兼任	講師	駒井 亘 (49) <令和4年10月> 修士(医療安全管理学)	兼任	講師	駒井 亘 (50) <令和4年10月> 修士(医療安全管理学)
		免疫学			免疫学			免疫学			臨床免疫学 免疫学 臨床免疫学
兼任	講師	山田 健太 (36) <令和3年10月> 専門学校卒			<就任辞退>			<就任辞退>			<就任辞退>
		ボランティア論									
			兼任	講師	藤本 真由 (40) <令和3年10月> 学士(福祉社会学)	兼任	講師	藤本 真由 (41) <令和3年10月> 学士(福祉社会学)	兼任	講師	藤本 真由 (42) <令和3年10月> 学士(福祉社会学)
					ボランティア論			ボランティア論			ボランティア論 ボランティア論
						兼任	講師	鶴本 雅信 (41) <令和4年10月> 修士(学術)			
								医用治療機器学 医用治療機器学実習			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・令和3年4月就任予定だった上農喜朗は就任辞退。
- ・令和3年4月就任予定だった木村文隆は、就任時期が令和3年8月に変更。これに伴い、令和3年7月までは兼任講師として授業を担当。
- ・令和3年4月就任予定だった藤堂敦、篠原智誉は、就任時期が令和4年4月に変更。
- ・令和3年4月就任予定だった鈴木操（兼任）が就任辞退のため、佐藤曜子（兼任）と織田修輔（兼任）のオムニバス形式に変更。
- ・令和3年10月就任予定だった山田健太（兼任）が就任辞退のため、藤本真由（兼任）に変更。

【令和4年度】

- ・令和3年4月就任予定だった上農喜朗が就任辞退のため、吉田靖の担当科目を追加。（令和4年2月教員審査済）
- ・令和4年4月就任予定だった藤堂敦は、就任辞退のため、松井智博の職位と担当科目を変更。（令和4年2月教員審査済）
また後任が決まらなかったため、臨時的処置として一部科目を鶴本雅信（兼任）に変更。
- ・令和4年4月就任予定だった篠原智誉は、就任時期が令和5年4月に変更。
- ・令和4年3月に山下哲平（兼担）が辞任のため、田中智之の担当科目を追加。（令和4年2月教員審査済）
- ・佐藤曜子（兼任）と織田修輔（兼任）が辞任のため、織田恵輔（兼任）と坂本拓己（兼任）に変更。

【令和5年度】

- ・指定規則の変更に伴い、令和5年度入学生より新カリキュラム（従来のカリキュラムを一部変更）を導入。
- ・令和5年4月に就任予定だった篠原智誉は、就任辞退。
- ・令和3年4月就任予定だった上農喜朗が就任辞退のため、駒井亘（兼任）の担当科目を追加。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等関係課程実施基本組織（学科関係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「関係協力学部等（関係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を関係協力学部等（関係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
21 名	11 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
13	6	5	0	24	3	12	6	3	0	21	0
(13)	(6)	(4)	(0)	(23)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
12	6	3	0	21	1	12	6	3	0	22	1
[Δ1]	[0]	[Δ2]	[0]	[Δ3]	[Δ2]	[Δ1]	[0]	[Δ2]	[0]	[Δ2]	[Δ2]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
70 歳	1 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{21}{24} = \boxed{87.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{21} = \boxed{4.76} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{3} = \boxed{33.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	上農 喜朗	R3.4	必修	臨床生理学	①	R3.4、一身上の都合のため就任辞退（R3）						
				必修	臨床免疫学	②							
2	准教授	藤堂 敦	R3.10	必修	医用治療機器学	①	R3.10、一身上の都合のため就任辞退（R4）						
				必修	医用治療機器学実習	①							
				必修	血液浄化療法装置学Ⅰ	①							
				必修	血液浄化療法装置学Ⅱ	①							
				必修	血液浄化療法装置学実習	①							
				必修	臨床実習	①							
				選択	多変量解析入門	①							
				必修	専門ゼミⅠ	①							
				必修	専門ゼミⅡ	①							
				選択	専門ゼミⅢ	①							
				選択	専門ゼミⅣ	①							
				必修	卒業研究	①							
3	講師	篠原 智誉		必修	基礎ゼミⅠ	①	R5.1、一身上の都合のため就任辞退（R5）						
				必修	基礎ゼミⅡ	①							
				必修	情報処理演習Ⅱ	①							
				必修	医用機器安全管理学実習	①							
				必修	臨床実習	①							
				選択	企業実習	①							
				必修	専門ゼミⅠ	①							
				必修	専門ゼミⅡ	①							
				選択	専門ゼミⅢ	①							
				選択	専門ゼミⅣ	①							
合計（D）			後任補充状況の集計（E）										
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）					
3	人	必修	15	科目	必修	14	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	19	科目	計	18	科目	計	1	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）			後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）			後任補充状況の集計（E）+（G）										
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）					
3	人	必修	15	科目	必修	14	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	19	科目	計	18	科目	計	1	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{3}{24} = \boxed{12.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員予定者のうち1名が自己都合により令和3年度の開設前に就任を辞退されることとなったが、担当科目は2科目のみであり、いずれも必修科目ではあるものの本学の教育課程におけるコア科目ではない。このうち1科目については専任の教授が担当することとし既に教員審査を了している。もう1科目は兼任講師が担当している。

令和3年度中に就任辞退となった教員に関しては、まず、専門ゼミⅠ～Ⅳと卒業研究・臨床実習は、多くの教員で分担して担当することとなっており、また、現在の学生数は少ないことから、特段の支障なく対応が可能である。血液浄化療法装置学Ⅰ、血液浄化療法装置学Ⅱ、血液浄化療法装置学実習の3科目については、専任の准教授の教員審査を了している。多変量解析入門については、専任の講師の教員審査を了している。医用治療機器学、医用治療機器学実習については、令和4年度はやむなく兼任講師により担当したが、専任教員による担当科目とすべく教員審査を予定している。

令和4年度中に就任辞退となった教員に関しては、

学生に対しては、状況について、年度初めのガイダンスで説明するほか、掲示や学内ネットワーク等で逐次周知を図っているところである。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和2年)</p>	<p>・「専門ゼミⅠ・Ⅱ」及び「専門ゼミⅢ・Ⅳ」について、配当年次や必修・選択の違いはあるものの、授業計画等はほぼ同一のものとなっており、教育課程上の位置付けが明らかではないことから、シラバス等に教育目的の違い等を明示するなどして、学生に対して当該科目の教育課程上の位置付けを適切に周知すること。 【助言事項】</p> <p>【認可】 助言事項</p>	<p>該当科目は2年次、3年次の科目である。開設初年度（昨年度）に開講した「基礎ゼミ」の状況や在学生数等を勘案し、専門ゼミⅠ・Ⅱと専門ゼミⅢ・Ⅳの在り方や具体的な授業方法等を学内で検証した。その上で、必修科目である専門ゼミⅠ・Ⅱは基礎ゼミの延長上の科目としての性格を強調することとし、一方、選択科目である専門ゼミⅢ・Ⅳは、より個別教員の研究面の性格を強めた内容とする予定である。学生に対しては、シラバスとともに追加資料の配布・説明会の開催等により十分に周知して実施している。(4)</p> <p>前年度報告で記載した方針を踏まえ、令和4年度の専門ゼミⅠ・Ⅱは、学生数が少ないことも勘案し、基礎ゼミの実施形式を踏襲し、学生を4つの組に分け複数の教員でそれぞれ担当することとした。</p> <p>学生に対しては、年度初のオリエンテーションの際に資料を配布し、専門ゼミの目的や実施方法等について十分に周知している。(5)</p>	<p>令和4年度における専門ゼミⅠ・Ⅱの実施状況等を踏まえつつ、次年度以降における専門ゼミⅠ・Ⅱと専門ゼミⅢ・Ⅳの在り方や具体的な授業方法等についてさらに検証を行い、改善を図っていく。(4)</p> <p>令和4年度における専門ゼミⅠ・Ⅱの実施状況等を踏まえ、令和5年度においては、専門ゼミⅠ・Ⅱは引き続き、学生を4つの組に分け複数の教員でそれぞれ担当することとした。専門ゼミⅢ・Ⅳについては、個別教員の研究面の性格を強めるという方針に即し、学生の希望を踏まえて担当教員を決定することとした。</p> <p>令和5年度の実施状況を踏まえ、これら科目の在り方や具体的な授業方法等についてさらに検証を行い、改善を図っていく。(5)</p>
<p>認 可 時 (令和2年)</p>	<p>・運動場が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。</p> <p>【認可】 助言事項</p>	<p>令和3年度においては、新型コロナウイルス感染状況とともに、学生数が少ないことも踏まえ、「健康・スポーツ実践Ⅰ・Ⅱ」の授業科目を長期休暇中の集中講義の形式で実施した。当該授業において運動場を利用する場合は、密にならないような大きさのマイクロバスをチャーターし移動手段とした。なお、新型コロナウイルスの感染状況の影響もあり、令和3年度においてはクラブ活動等は行われなかった。(4)</p> <p>令和4年度においても、「健康・スポーツ実践Ⅰ・Ⅱ」の授業科目を長期休暇中の集中講義の形式で実施するとともに、当該授業において運動場を利用する場合は、マイクロバスをチャーターし移動手段とした。</p> <p>学生の課外活動に関しては、令和3年度末に学生の自治組織である校友会が発足したが、現時点までにスポーツ系のクラブは発足していない。現状では、有志で運動場を利用する際に、自己で移動手段を確保している。(5)</p>	<p>今後、授業科目における運動場の利用に際しては、マイクロバスのチャーター等により、教育に支障のないようかつ安全にも留意して対応していく。学生の課外活動に関しては、令和3年度末に学生の自治組織である校友会が発足し、今後のクラブ活動の推進が見込まれることから、運動場をはじめ施設利用に対する支援等に十分配慮していく。(4)</p> <p>今後とも、授業科目における運動場の利用に際しては、マイクロバスのチャーター等により、教育に支障のないようかつ安全にも留意して対応していく。今後、スポーツ系のクラブが発足し運動場利用の希望が出てきたときは、校友会からの支援を含め、運動場ほかの施設利用に対する支援等に十分配慮していく。(5)</p>

<p>設置計画履行状況 調査結果 (令和3年度)</p>	<p>・教育内容の充実等を通じ入学定員未充足の改善に努めること</p>	<p>【AC】 改善意見</p>	<p>開設から2年間、学生確保が不調となった主な原因として次のことが挙げられる。 初年度(2020年度)については、まず、新型コロナの感染拡大に伴い広報活動(高校訪問、ガイダンス、オープンキャンパス等)の実施上で非常に大きな制約を受け、実質的な新設大学として知名度向上を期する機会が相当に制限されたことが挙げられる。また、コロナ禍で設置認可時期が大幅に遅れたことを背景に、高校や高校生への正式の案内が遅れるとともに、入試の実施時期が当初計画よりもかなり遅れることとなった(最初の入試は12月12日実施)。既に他学においては指定校選抜や学校推薦型選抜がおおむね終了しており、出足の学生確保が極めて不調となった。 さらに、入試制度改革の初年度であることに加え、コロナ禍での経済的不安などの事情が加わったため、本学の主対象と想定する受験生層において、進学先の早期決定、併願校絞り込み等の動きが強かったものと考えられ、年明け以降における学生確保も不調となった。 2年目に関しては、以上を踏まえつつ、早期からの広報活動推進やオープンキャンパス開催数の増加、高校訪問・ガイダンスの増加などの対応に取り組んだところである。しかしながら、結果として2年目の入学者数も、大きな定員割れとなった。 この要因として、まず資料請求への対応が的確ではなかったこと、資料請求の内訳等の分析とそれに応じた対策が十分ではなかったことが挙げられる。例えば、本学が想定する偏差値階層よりも高い層(60以上)からの請求数が相当の割合を占めたこと、女性の請求が過半を占める(58%)などの数値となったこと、本学ホームページからの請求が非常に少なかったことなど、2年目においてはこれらに応じた対策が十分ではなかった。 次に、知名度向上のための取組がまだ不十分であったことが挙げられる。コロナ禍が継続していたが、高校訪問をはじめ知名度を上げるための取組に一層精力的に取り組むことが必要であったと考えられる。さらに、受験生における進路決定の一層の早期化などの動きに対して、例えば、本学入試において入試時期の一層の早期化や多様化を図るといった入試・広報上の抜本的な取組が不十分で、結果として後手後手の動きとなっていた。 総じて、初年度の失敗の要因の的確な分析とそれに基づく適切な対応策を図り生かすことが十分にできなかったと認識している。(4)</p>	<p>以上の原因分析にかんがみ、今後の学生確保に係る改善の余地は非常に大きいと考えており、現在、次に掲げるような諸般の取組を進めているところである。 3度目の入試年度となる今年度においては、現時点において少なくとも昨年度を超える入学者数確保が見込めており、今後の一層の学生確保対策の推進により入学定員数に相当する入学者確保に努めるとともに、2年次・3年次編入学生の確保にも尽力しているところである。 ①資料請求者をはじめ本学へアクションを起こしてくれた人に対するフォロー活動をタイムリーにかつ丁寧に行っている。その際、高校3年生と2年生の本学担当者を分けるなど効果的な対策のための工夫を図っている。 ②オープンキャンパスなど広報イベントを早期から定例的、開催頻度を大幅に高めて開催し、本学にアクセスしやすい環境を整えている。 ③広報イベントについて、単純なオープンキャンパスだけでなく、姉妹校との合同開催や、女子を対象とした2年生を対象としたイベント等ターゲット別のイベントにも取り組んでいる。 ④入試制度について、進路決定の早期化に対応しつつ多様な入学生を確保する観点から、総合型選抜において適性を踏まえた多様な選考を行う複数の枠組みを設けるとともに、入試日の増加や可能な範囲での早期化を図るなどの取組を行っている。 ⑤高校訪問の担当者を拡充配置し(2名の配置)、訪問活動を大幅に増加させ、高校への知名度や理解度の向上を図っている。 ⑥ホームページの改善やブログの新規開設などSNSの活用を進めることにより、本学情報の露出機会を増加させるとともに、本学ホームページからの資料請求を増加させるよう努めている。 ⑦編入学生の確保のための取組として、専門予備校、高専、専門学校や大学・短大への資料発送、訪問活動を推進している。その際、当然ながら、2年次編入、3年次編入の対象者の違い等を踏まえつつ取組を進めている。また、次年度においては4年次編入にも取り組んでいくこととしている。 ⑧入学生の確保や臨床工学技士のPRに向けて、姉妹校との連携を一層進めるとともに、姉妹校のOB等に向けた広報活動を活用し、志願者、編入学希望者の増加に努めている。(4)</p>
<p>設置計画履行状況 調査結果 (令和4年度)</p>	<p>・平均入学定員超過率が0.22倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。また、当該分析を踏まえ、入学定員の見直しも検討すること。</p>		<p>前年度の報告で挙げたような取組を鋭意進めたにもかかわらず、入学定員80名に対し令和5年度入学の入学生は22名と、引き続き入学定員を大きく下回る結果となった。 令和5年度の入試状況は、初期段階では前年度よりも増加したが(11月末までの出願者数：前年度14名、当年度20名)、12月以降はむしろ前年度よりかなり減少し(12月以降の出願者数：前年度20名、当年度9名)、結果、前年度と同じ入学者数となった。 また、編入学に関しては、数件の相談はあったものの、出願までには至っていない。 令和5年度入試の結果の原因としては、諸般の要因が考えられるが、特に次の要因が大きいものと考えられる。</p>	<p>今後の学生確保活動については、前年度までの取組を進めつつ、特に左記の分析に基づき、学生確保対策及び入試制度の枠組みについて、次のような取組を重点的に行っていくこととしている。 なお、現高校3年生のオープンキャンパス等への来学数(4月末時点)は、総数として多い数値ではないものの、前年度・前々年度に比べると、大幅に増加している。(前年度12名・前々年度13名⇒当年度38名) ①体制の拡充 前年度までは学校広報経験者の常勤者は1名のみであったが、今年度はこれを入れ替え、かつ2名に拡充した。また、高校訪問の担当者は年度初から引き続き活動しており、知名度向上を主目的として広く回った昨年度に比べ、今年度は対象を絞った訪問活動を進めていく。</p>

①大学の認知度の低さ

令和4年5月から、高校訪問を担う担当者を置き、年間延べ800校を超える高校訪問活動を行った。その中で、本学のことを認知していない高校が大半を占めている状況であった。令和4年度の訪問活動により本学の知名度はかなり上がったものと考えられるが、令和5年度入試の成果には結びつかなかった。

②臨床工学技士の認知度の低さ

①で言及した高校訪問の際、本学の知名度の低さとともに、臨床工学技士の認知度が他の医療職種に比べてかなり低いことも改めて認識された。診療放射線技師や臨床検査技師に比しても認知度が低く、仕事の中身が理解されおらず、訪問時に詳しく説明することで初めて重要な仕事であることが理解されるということが多い状況であった。ガイダンス等でも、高校生の臨床工学技士の認知度は低く、業務内容を説明すると関心を従前よりも強く持つてもらえることが非常に多い。

③受験生の動向

令和5年度入試は前年度よりも初期段階の動きは良かったものの、後半が動きが極めて少なかった。本学が獲得対象とするような層の受験生の動きが前年度以上に早期化しており、その動きに十分に対応できていなかった。

また、18歳人口の減少は、全体として特に本学のような大学への影響は大きいものと考えられる。

④本学の特色のとらえ方

本学は臨床工学科のみの単科大学であり、また、立地は駅前で交通の便は非常に良いものの、校地面積は広くはなく一般に「大学キャンパス」として想像されるような環境ではない。単科大学であるため、教員と学生の距離は非常に近く、指導体制も充実していること、広々としたキャンパスはないが、交通の便が極めて良いこと、という本学の特色は、これを非常に良い点と捉えてくれる人もいるが、一方で選択肢から除外する人が多いものと考えられる。

⑤以上を踏まえた入学定員の適正設定

以上のような状況を勘案した場合、現状以上の入学者を確保することはできるものと考えられるが、80名という入学定員が適正であるかについては、検討を行う必要がある。(5)

【追加書面調査に係る回答】

1 入学定員の設定について

従来の入学定員80名の見直しについて本年6月に届出を行うに当たり、次のような4月末までの動向等を踏まえて検討を行いました。

①受験層の来学者数

オープンキャンパスで高校3年の4月末までに来学された高校生の数は次のように大きく増大していたこと。

2022入試	2023入試	2024入試
13名	12名	38名

②適性検査の受講者数

本学の総合型選抜（特別選考型）の出願のために要件として課している「適性検査」の受講者数が、4月末までに10名となっていたこと。（前年度は同様の枠組みを5月から開始）

③本学HPからの資料請求等の増加

来学や出願につながる確率が高い自学HPからの資料請求数（受験層の4月末までの累積数）が大きな数値ではないものの次のように増大していたこと。

2022入試	2023入試	2024入試
11件	15件	36件

過去の実績が、2022年度入試〔出願34名、入学22名〕、2023入試〔出願29名、入学22名〕であったことや、受験生の動きが早期化しているとされていることなどの事情にも留意しつつ、それでも以上のようなデータを踏まえ、前年度の倍近い40名の入学者数を確保することは十分に可能であると判断し、本学の講義室・実習室等のキャパシティ等も考慮し、入学定員40名を設定しました。

【A C】
是正意見

履行中

②広報手段等の改善

体制の拡充に合わせて、懸案となっていたWEB対策を積極的に取り組むこととし、受験生サイトの新規構築、大学ブログの内容の見直しや更新頻度の増、見にくいページの改修などに取り組んでいる。これにより来学や受験につながりやすい「HPからの資料請求」の増加につなげていく。また、大学の紹介などの動画についてもより多様なメニューでの作成などに取り組んでいるところである。

③広報イベントの改善・拡充

オープンキャンパス等の広報イベントについて、病院見学や、企業見学（実習先である医療機器関連企業）などもメニューに加える。また学生寮の体験宿泊制度のPRやオンライン相談会の一層の開催などにより、遠方からの受験生等の増大につなげていく。

④高校との連携強化

連携協定を締結している高校はまだ2校に過ぎないが、未締結校との間でも出前授業などに取り組んでいる。今後とも高校訪問に際して出前授業等のメニュー紹介等により高校との連携を深める機会を拡大していく。また、指定校の拡大にも取り組む。

⑤入試制度の見直し

前年度は、多様な学生確保を図るため総合型選抜の中で入試区分を多く設定したが、逆に受験生にとって分かりにくいものとなったおそれがある。今年度は前年度のいくつかの入試区分を1つにまとめつつ、前年度と同様にオープンキャンパスから入試につながる枠組みを設定する。また、全般的に入試の回数を増加することとしている。

編入学に関しては、カリキュラムの関係で2年次編入・3年次編入は難しい場合もあるが、完成年度から受け入れる4年次編入については、臨床工学技士養成校（特に専門学校）を対象として一定の需要が見込まれる。姉妹校の専門学校の中には希望者が既に数名おり、積極的に取り組んでいく。また、海外提携校からの編入学についても希望者がいるところであり、適切に対応すべく準備を進めていく。

⑥入学定員の見直し

現在の80名の入学定員について、令和6年度の入学生から40名に減じる方向で検討、調整を進めている。今後、この方針が決定次第、早急に学則変更の届出を行うべく対応を進めていく。

2 令和6年度入学者選抜における入学定員の充足に向けた改善策の実施状況
 現在における次年度入試での入学定員の充足に向けた改善策の実施状況は、「入学定員の減員（届出済）」を除き、次のとおりです。

① 体制の拡充
 1) 今年度から、学校広報の実務経験を有する職員数を1名から2名に増員することで、入試広報関連業務について適切に役割分担を図り、もって従来必ずしも十分に行えなかった広報活動が丁寧に行えるようになっている。

以下2)以降に記載した事項が対応できるようになったことに加え、例えば次のようなことが挙げられる。

- ・大学案内パンフレットの全面改訂
- ・募集要項について、高校生向けの分かりやすいガイドブックを作成
- ・資料請求者向けDMや高校訪問時の持参資料の作成頻度の増大

2) 高校訪問の専任担当者の訪問活動数は次のような実績となっている。

〔高校訪問校数（延べ数）〕

2022年度（5/16-3/31）	延べ733校
2023年度（4/1-9/29）	延べ475校

こうした訪問活動により、本学の知名度とともに「臨床工学技士」に対する理解も深まっているところである。成果としては、本学キャンパスにて開催する高校教員向け入試説明会への参加者数について、コロナ禍の影響もあり一概には比較できず、また単科大学であるため総数は必ずしも多くはないが、次のように増大している。

〔高校教員向け入試説明会参加高校数〕

2021年度	2022年度	2023年度
25校	13校	55校

② 広報手段等の改善
 WEB関連の取組としては、次のようなことが挙げられる。

- ・受験生サイトの新規作成
- ・HPのデザインなどの修正〔トップページ修正、広報イベントページの日程表示・導線の改善など〕
- ・ブログ・コラム記事の更新〔新規記事数：2024年度24本〕
- ・SNSの更新頻度の増加

こうしたWEB関連の取組により、次のような成果が見られている。

	2022年4月～9月	2023年4月～9月
HP閲覧セッション数	31375	49866
イベント申込数	94	137

③ 広報イベントの改善・拡充
 広報関連のイベントとして、病院見学、企業見学（医療機器関連企業）を実施した。キャバシティ等の関係上、人数は制限されたが、参加者からは大変に好評であった。

見学先	日時	参加者数
病院見学 阪和記念病院（大阪市）	6/24	高3：1名 既卒：1名
〃	〃	8/9 高3：4名、 高2：3名
企業見学 エア・ウォーター㈱（神戸市）	7/28	高3：4名、 高2：1名

また、オープンキャンパスの中で病院とオンラインで接続して紹介してもらった取組を行ったが、これも非常に好評であり、こうした現場を直接に見せる取組は今後も継続していく予定である。

さらに、オープンキャンパスや入試の際に学生寮で宿泊体験をすることができる取組を始めたが、利用者数は、2023年8月から10月までで5組であった。

【参加者の住所】兵庫県小野市、静岡県富士市、徳島県徳島市、愛知県名古屋、長野県松本市

④ 高校との連携強化
 高校への出前授業については、本年度は3校で6回開催した。

なお、高校で実施される校内ガイダンスへは、本年4月1日～9月末の間に、延べ48回参加した（対応高校生数は延べ300名）。

⑤ 入試制度の見直し
 入試制度の見直しについては、別紙のとおり前年度から見直しを行った。

編入学に関しては、次年度から可能となる4年次編入学について、他の年次よりも需要が高いと見込まれることから、次のような広報活動を行った。

- ・姉妹校の臨床工学技士養成の学科への案内・説明、在校生への説明会
- ・全国の臨床工学技士養成校への案内・募集要項発送
- ・編入学予備校や、本学の教育内容に関連する教育内容（医療系、工学系）を取り扱う専門学校等への案内・募集要項発送

以上のような取組の成果として、現時点（9月末現在）において次のような状況となっています。広報媒体の大幅な見直しなどにより資料請求数は伸びていませんが、来学者数は大幅に増大しています。また、9月末時点の出願者数も増大しています。

なお、現高校2年生については、来学者数が現高校3年生よりもさらに大きく増大しているところです。

○資料請求数（受験層：高校3年時9月までの累積数）

2021入試	2022入試	2023入試	2024入試
1118件	1296件	1195件	1149件

○来学者数（受験層：高校3年時9月までの累積数）

2021入試	2022入試	2023入試	2024入試
18名	35名	48名	77名

○出願者数（編入を除く）

2021入試	2022入試	2023入試	2024入試
-	1名	7名	12名

【参考】〔現高校2年生の動向〕

○資料請求数（高校2年時9月までの累積数）

2024入試対象	2025入試対象
581件	1027件

○来学者数（高校2年時9月までの累積数）

2024入試対象	2025入試対象
9名	44名

(別紙)		2024入試概要〔2023入試との対比〕									
2023入試					2024入試						
入試区分	募集定員	選考方法	配点	期	試験日	入試区分	募集定員	選考方法	配点	入試日程	
総合型選抜(AO)入試 《セミナー参加型》	12	■セミナーにおける登録・課題提出 ■個人面接 ■志望理由書(出願時に提出)	200点 60点 40点	A日程	2022/9/18	総合型選抜(AO)入試 《特別選抜型》	14	■個人面接 ■志望理由書(出願時に提出) ※出願条件 ＝適性検査を修了すること	60点 40点	I期	2023/9/17
			B日程	2022/10/2	II期					2023/10/1	
			C日程	2022/10/15	III期					2023/10/22	
総合型選抜(AO)入試 《特別選抜型》	8	同上	同上	A日程	同上	総合型選抜(AO)入試 《基礎考査型》	2	■数学Ⅰ・A又は小論文 ■個人面接 ■志望理由書(出願時に提出)	100点 60点 40点	IV期	2023/11/19
		■個人面接 ■志望理由書(出願時に提出)	60点 40点	D日程	2022/11/13					V期	2023/12/17
総合型選抜(AO)入試 《学園卒業生推薦型》		■個人面接 ■志望理由書(出願時に提出)	60点 40点	E日程	2022/12/18					VI期	2024/1/21
				I期	2022/11/27					VII期	2024/2/28
				II期	2022/12/18					VIII期	2024/3/22
総合型選抜(AO)入試 《基礎考査型》	4	■数学Ⅰ・A又は小論文 ■個人面接 ■志望理由書(出願時に提出)	100点 60点 40点	I期	2022/12/24	総合型選抜(AO)入試 《指定校推薦選抜入試》	10	■個人面接 ■志望理由書(出願時に提出)	60点 40点	I期	2023/10/22
				II期	2023/3/24						
指定校推薦選抜入試	14	■個人面接 ■志望理由書(出願時に提出)	60点 40点	I期	2022/11/13	指定校推薦選抜入試	10	■個人面接 ■志望理由書(出願時に提出)	60点 40点	III期	2024/1/21
				II期	2022/12/17						
工業系特別推薦 選抜入試	5	■個人面接 ■志望理由書(出願時に提出)	60点 40点	I期	2022/11/12	学校推薦型選抜入試	3	■数学Ⅰ・A ■個人面接 ■適性検査 評定×4=20点 その他=20点 (指導上参考となる諸事項ほか)	100点 60点 40点	I期	2023/11/12
				II期	2022/12/17						
学校推薦型選抜入試	14	■数学Ⅰ・A ■個人面接 ■適性検査 評定×4=20点 その他=20点 (指導上参考となる諸事項ほか)	100点 60点 40点	I期	2022/11/12 2022/11/13	一般選抜入試	8	■学力試験 3教科型/2教科型 200点×1.5	300点 200点×1.5	III期	2024/1/21
				II期	2022/12/17 2022/12/18						
				III期	2023/1/22						
				IV期	2023/2/11						
				V期	2022/3/6						
一般選抜入試	20	■学力試験 3教科型/2教科型	300点 200点×1.5	I期	2023/2/3	大学入学共通テスト 利用選抜入試	3	■学力試験は実施しない	200点	I期	2023/2/2
				II期	2023/3/6						
大学入学共通テスト 利用選抜入試	3	■学力試験は実施しない	200点	I期	-						
				II期	-						
	80						40				

<p>【追加書面調査 (R5. 12)】 当初計画に対する専任教員の充足率が87.5%となっているが、当初計画どおりの専任教員数の確保に向けた今後の教員採用計画について、具体的に説明すること。また、当初計画よりも専任教員が減少している現状において、教育研究上の支障の有無について説明するとともに、何らかの支障がある場合は、その具体的な対応策等についても併せて説明すること。</p>	<p>【追加書面調査に係る回答】 当初計画では、24名の専任教員を整備する予定であったが、現状においては21名の専任教員数となっている。(21名は設置基準を満たす数字である。) 3名の未就任の理由はいずれも自己都合によるものであるが、当初の計画では次の科目を担当する予定となっていた。 〔★を付した科目は、重要科目として位置付けていた科目である。〕 ①教授：臨床生理学、臨床免疫学 ②准教授：医用治療機器学★、医用治療機器学実習★、血液浄化療法装置学Ⅰ★、血液浄化療法装置学Ⅱ★、血液浄化療法装置学実習★、臨床実習★、多変量解析入門、専門ゼミⅠ、専門ゼミⅡ、卒業研究 ③講師：基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、医用機器安全管理学実習★、臨床実習★、企業実習、専門ゼミⅠ、専門ゼミⅡ、専門ゼミⅢ、専門ゼミⅣ</p> <p>これらの科目については、次のように対応しているところである。</p> <table border="1" data-bbox="779 694 1457 1127"> <tr> <td>臨床生理学</td> <td>専任の教授が担当(教員審査済)</td> </tr> <tr> <td>臨床免疫学</td> <td>非常勤講師により担当</td> </tr> <tr> <td>医用治療機器学、医用治療機器学実習</td> <td>非常勤講師により担当。なお、本学専任准教授1名が補助的に対応している。</td> </tr> <tr> <td>血液浄化療法装置学Ⅰ、血液浄化療法装置学Ⅱ</td> <td>専任の准教授が担当(教員審査済)</td> </tr> <tr> <td>血液浄化療法装置学実習</td> <td>専任の准教授(教員審査済)及び当初予定の専任講師2名が担当</td> </tr> <tr> <td>臨床実習</td> <td>教務委員会の総括の下、専任教員7名で担当</td> </tr> <tr> <td>多変量解析入門</td> <td>専任の講師が担当(教員審査済)</td> </tr> <tr> <td>医用機器安全管理学実習</td> <td>専任の教授が担当(教員審査済)</td> </tr> <tr> <td>企業実習</td> <td>教務委員会の総括の下、専任教員8名で担当</td> </tr> <tr> <td>基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、専門ゼミⅠ、専門ゼミⅡ、専門ゼミⅢ、専門ゼミⅣ、卒業研究</td> <td>基礎ゼミⅠ・基礎ゼミⅡは専任教員7名、専門ゼミⅠ・専門ゼミⅡは専任教員15名、専門ゼミⅢ・専門ゼミⅣは専任教員11名、卒業研究は専任教員15名で担当。なお、2024年度は専門ゼミ及び卒業研究の担当教員を増やすこととし、現在、教員審査を提出中。</td> </tr> </table> <p>以上のような対応により、現状において教育活動に関して支障は生じていない。また、研究面においても具体的な支障等は生じていない。ただし、重要科目である「医用治療機器学、医用治療機器学実習」については、専任教員により担当するように取り計らうことが必要と認識している。 本学の学生確保状況は初年次から3年目まで入学定員を大きく下回っているが、そのことにより教育面では教員数が当初予定より下回っている中でも、大きな教員負担の増嵩を伴わずに十分に丁寧な指導ができていく状況にある。また、完成年度の2024年度からは入学定員を減員することとなっている(80名⇒40名)。 以上のような状況を踏まえ、まず、当初計画に即した専任教員の確保に関しては、2024年度後期までに、特に重要科目(医用治療機器学、医用治療機器学実習)を担当する専任教員1名を新たに確保すべく検討・調整中である。それ以上の専任教員の新規確保に関しては、現在の教育活動の実施状況が円滑に行われていることや、現在の学生数・次年度からの収容定員減などを踏まえて、現時点で具体的な計画は立てていない。 なお、2024年度に完成年度を迎え、2024年度末で多くの専任教員(7名の見込み)の定年退職が見込まれることから、その後の教学体制整備を検討・調整するため、大学運営会議の下に検討チームを置いて対応を始めているところである。具体的な検討・調整や人材確保に向けた取組を並行して行いながら、2024年12月までに整備計画を確定することを目途としている。</p>	臨床生理学	専任の教授が担当(教員審査済)	臨床免疫学	非常勤講師により担当	医用治療機器学、医用治療機器学実習	非常勤講師により担当。なお、本学専任准教授1名が補助的に対応している。	血液浄化療法装置学Ⅰ、血液浄化療法装置学Ⅱ	専任の准教授が担当(教員審査済)	血液浄化療法装置学実習	専任の准教授(教員審査済)及び当初予定の専任講師2名が担当	臨床実習	教務委員会の総括の下、専任教員7名で担当	多変量解析入門	専任の講師が担当(教員審査済)	医用機器安全管理学実習	専任の教授が担当(教員審査済)	企業実習	教務委員会の総括の下、専任教員8名で担当	基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、専門ゼミⅠ、専門ゼミⅡ、専門ゼミⅢ、専門ゼミⅣ、卒業研究	基礎ゼミⅠ・基礎ゼミⅡは専任教員7名、専門ゼミⅠ・専門ゼミⅡは専任教員15名、専門ゼミⅢ・専門ゼミⅣは専任教員11名、卒業研究は専任教員15名で担当。なお、2024年度は専門ゼミ及び卒業研究の担当教員を増やすこととし、現在、教員審査を提出中。
臨床生理学	専任の教授が担当(教員審査済)																				
臨床免疫学	非常勤講師により担当																				
医用治療機器学、医用治療機器学実習	非常勤講師により担当。なお、本学専任准教授1名が補助的に対応している。																				
血液浄化療法装置学Ⅰ、血液浄化療法装置学Ⅱ	専任の准教授が担当(教員審査済)																				
血液浄化療法装置学実習	専任の准教授(教員審査済)及び当初予定の専任講師2名が担当																				
臨床実習	教務委員会の総括の下、専任教員7名で担当																				
多変量解析入門	専任の講師が担当(教員審査済)																				
医用機器安全管理学実習	専任の教授が担当(教員審査済)																				
企業実習	教務委員会の総括の下、専任教員8名で担当																				
基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、専門ゼミⅠ、専門ゼミⅡ、専門ゼミⅢ、専門ゼミⅣ、卒業研究	基礎ゼミⅠ・基礎ゼミⅡは専任教員7名、専門ゼミⅠ・専門ゼミⅡは専任教員15名、専門ゼミⅢ・専門ゼミⅣは専任教員11名、卒業研究は専任教員15名で担当。なお、2024年度は専門ゼミ及び卒業研究の担当教員を増やすこととし、現在、教員審査を提出中。																				

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)(5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療科学部 臨床工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>令和3年度の学部開設時から、医療科学部のFD委員会を設置。6名（令和3年8月までは5名）の委員で構成。既設の大学院FD委員会と連携しつつ、学部独自のFD等の取組を進めている。</p> <p>令和4年度途中から、委員会の名称をFD/SD委員会と変更し、SDも当委員会で取り組むことを明確にした。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>2022年4月28日（木）</td> <td>委員6名全員参加</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>2022年5月26日（木）</td> <td>委員6名全員参加</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>2022年6月23日（木）</td> <td>委員6名中5名参加</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>2022年7月26日（火）メール審議</td> <td>委員6名全員参加</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>2022年8月23日（火）メール審議</td> <td>委員6名全員参加</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>2022年9月28日（水）メール審議</td> <td>委員6名全員参加</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>2022年10月27日（木）</td> <td>委員6名中5名参加</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>2022年11月24日（木）</td> <td>委員6名全員参加</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>2022年12月22日（木）</td> <td>委員6名中5名参加</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>2023年1月26日（木）メール審議</td> <td>委員6名全員参加</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>2023年2月21日（火）メール審議</td> <td>委員6名全員参加</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>2023年3月23日（木）</td> <td>委員6名中4名参加</td> </tr> </table> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FD委員会の協議事項は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) FD/SD推進のための企画及び実施に関すること。 (2) FD/SDに関する報告書等の作成に関すること (3) FD/SDに関する調査・研究に関すること。 (4) 教育内容及び教育環境の改善に関すること。 (5) 教育技法の改善・向上のための具体的活動に関すること。 (6) 学生による授業評価の実施・結果公表と授業改善に関すること。 (7) 教職員の資質開発を図るための組織的な研修に関すること。 (8) その他FD/SDの推進に関すること。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>令和4年度においては、次のような活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生による授業評価アンケート（年間2回、前期・後期） ②授業改善報告書の作成（すべての開講科目を対象） ③FD研修の実施 ④授業改善報告会の実施 ⑤学校法人による諸研修への教職員（主に職員）の参加 	第1回	2022年4月28日（木）	委員6名全員参加	第2回	2022年5月26日（木）	委員6名全員参加	第3回	2022年6月23日（木）	委員6名中5名参加	第4回	2022年7月26日（火）メール審議	委員6名全員参加	第5回	2022年8月23日（火）メール審議	委員6名全員参加	第6回	2022年9月28日（水）メール審議	委員6名全員参加	第7回	2022年10月27日（木）	委員6名中5名参加	第8回	2022年11月24日（木）	委員6名全員参加	第9回	2022年12月22日（木）	委員6名中5名参加	第10回	2023年1月26日（木）メール審議	委員6名全員参加	第11回	2023年2月21日（火）メール審議	委員6名全員参加	第12回	2023年3月23日（木）	委員6名中4名参加
第1回	2022年4月28日（木）	委員6名全員参加																																		
第2回	2022年5月26日（木）	委員6名全員参加																																		
第3回	2022年6月23日（木）	委員6名中5名参加																																		
第4回	2022年7月26日（火）メール審議	委員6名全員参加																																		
第5回	2022年8月23日（火）メール審議	委員6名全員参加																																		
第6回	2022年9月28日（水）メール審議	委員6名全員参加																																		
第7回	2022年10月27日（木）	委員6名中5名参加																																		
第8回	2022年11月24日（木）	委員6名全員参加																																		
第9回	2022年12月22日（木）	委員6名中5名参加																																		
第10回	2023年1月26日（木）メール審議	委員6名全員参加																																		
第11回	2023年2月21日（火）メール審議	委員6名全員参加																																		
第12回	2023年3月23日（木）	委員6名中4名参加																																		

b 実施方法

- ①学生の授業評価アンケートは、各期の授業期間最終週に、WEB上で回答させた。
設問は6問、他に自由記述式の設問あり。結果は、その概要を学内で公表した。
- ②授業改善報告書は、非常勤講師担当科目を含め全科目について、全授業回終了後に作成してもらった。
結果について教授会で報告するとともに、その概要を学内で公表した。
次年度以降の授業改善への活用方法について、今後さらに検討を進めていくこととしている。
- ③FD研修は、7回開催（大学院との合同3回、学部単独4回）
- ④授業改善報告会は、前年度と今年度の授業評価アンケートを踏まえ報告者を選定して実施した。
- ⑤学校法人による様々な内容・レベルの研修が年間を通じて開催され、本学からも主に事務職員が
数次にわたり参加した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

◆FD研修の実施状況

- | | | |
|-------------|------------------|-----------|
| ①2022年7月13日 | 「個人情報の取扱いに関する研修」 | 学部教員13名参加 |
| ②2022年7月14日 | 「試験問題作成に関する研修」 | 学部教員16名参加 |
| ③2022年7月14日 | 「科研費に関する研修」 | 学部教員16名参加 |
| ④2022年9月14日 | 「障害者支援に関する研修」 | 学部教員7名参加 |
| ⑤2022年9月15日 | 「研究不正の防止に関する研修」 | 学部教員17名参加 |
| ⑥2022年12月8日 | 「授業改善報告会①」 | 学部教員19名参加 |
| ⑦2023年1月12日 | 「授業改善報告会②」 | 学部教員17名参加 |

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業評価アンケートや授業改善報告書の作成に加え、授業改善報告会を新たに行うこととし、授業改善への教員の意識が一層高まっている。教員相互の授業参観を含め、さらにFD活動を推進し、より一層の授業改善、教育の質の保証につなげていく。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業評価アンケートは、原則として各セメスターごとに全授業終了時期に実施予定している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートについては、該当教員にフィードバックしつつ、FD委員会で総括を行うとともに、全体を取りまとめた概要を学生に対して掲示板で公表している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

滋慶医療科学大学 医療科学部 FD/SD委員会規程

第1条 滋慶医療科学大学医療科学部教授会の下に、滋慶医療科学大学学則第5条に規定する組織的な研修を実施するためFD/SD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、医療科学部のファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）、すなわち授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う。

3 委員会は、全学のスタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）、すなわち教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るために必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けるなどの取組を行う。

4 前2項の対象は、医療科学部の全教職員とする。

第2条 委員会は、FD/SD活動が持続的に実行されるよう、次の各号に掲げる事項について審議するとともに、各年度におけるFD/SD活動を推進する。

- (1) FD/SD推進のための企画及び実施に関すること。
- (2) FD/SDに関する報告書等の作成に関すること
- (3) FD/SDに関する調査・研究に関すること。
- (4) 教育内容及び教育環境の改善に関すること。
- (5) 教育技法の改善・向上のための具体的活動に関すること。
- (6) 学生による授業評価の実施・結果公表と授業改善に関すること。
- (7) 教職員の資質開発を図るための組織的な研修に関すること。
- (8) その他FD/SDの推進に関すること。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 専任の教授、准教授、講師及び助教から若干名
- (2) 専任の事務職員から若干名
- (3) その他委員会が必要と認めたる者

2 委員会に、委員長を置き、委員の互選によって前項第1号の委員の中から選考する。

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。

第5条 委員長は、必要と認められた場合、委員以外の者を出席させることができる。

第6条 委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席委員の過半数の賛成を必要とする。

第7条 委員会は、必要に応じ学長の指示を受け、大学院のFD/SD委員会と合同で委員会を行い、活動を行うものとする。

第8条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、委員会が別に定める。

第9条 この規程の改正は、学部教授会の意見を聴いて、学長が行う。

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、「豊かな人間性や教養と専門分野の的確な知識及び技能の上に、課題解決力、変化対応力を備えた人材を養成するとともに、我が国の将来を見据えた研究の推進を図り、もって健全な社会の構築に貢献すること」を目的としており、研究推進を図りつつも、養成人材像に即した人材を育てていくことが最も重要な目的である。

この目的の達成に向けて、開設以降、授業科目はカリキュラムに即して開講できている（一部開講時期の見直しを行った科目がある）。

令和4年度も社会全体での新型コロナの感染状況は継続したが、本学では令和4年度はすべて対面授業を行った。完成年度までは設置認可申請書に即した教育等の実践を図っていくことが重要であるが、令和5年度からの対応が求められる臨床工学技士養成課程に係るカリキュラムの改正に対して、令和4年度中に厚生労働省への手続きを了し、また科目の見直しに係る教員審査についても逐次進めているところである。

また、令和5年度から実施する外部実習（病院実習、企業実習）について、実習先との連絡調整を含め着実に準備を進めている。さらに、就職対策、国家試験対策についても令和5年度から本格的に対応を開始している。

また、令和5年度においては、認証評価を受審する予定であり（評価機関：高等教育評価機構）、各種のエビデンスの整備を含め、改めて本学の運営について検証を重ねており、より適正・的確な組織運営、教育実践、学生指導等を確認する機会となっている。

本学の最重要課題である学生確保については、6の項で述べたように、学生確保対策とともに収容定員の見直しなど諸般の検討・取組を進めていくこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和4年度の自己点検・評価報告書については、令和5年6月を目途に公表予定である。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上で公開予定（令和5年6月の見込み）
- ・実習先病院・企業その他の関係先へ配布。

③ 認証評価を受ける計画

- ・既設大学院の認証評価受審に合わせ、令和5年度に受審予定（日本高等教育評価機構）。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。